

Kavieng

蛸壺屋

Rabaul

18禁

テートクの決断

ラバウル1943

Milne

艦娘太平洋戦争 第4弾



テートクの決断

# ラバウル1943

蛸壺屋



長門 武蔵



瑞鶴 隼鷹



熊野 烏海 那智 青葉



長良 五十鈴 川内 神通 阿武隈



白雪 漣 時雨 村雨 大潮 朝雲 朧 黒潮 陽炎



雪風 萩風 伊8



1943年2月  
ニューブリテン島  
ラバウル

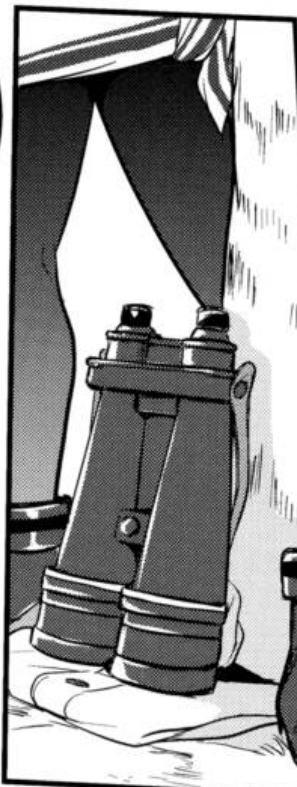
半年に渡る  
ガダルカナル島の  
死闘が終わった後

双方一息ついた形で  
前線は落ち着きを  
見せていた

雪風エー

あ  
津風  
時

お  
し  
や



ガ島にいた  
兵隊さん達が  
入院してるの

あははは

ちょっと雪風!  
何やってんの!



み  
見られてる  
わよ!

知ってた  
時津風?

兵隊さんに聞いたたら  
『餓島』になってからは  
性欲なんか全く  
感じなかったんだって

性欲って……  
そんなこと  
よく聞いたわね

ホンツト  
雪風って助平ね

違うし

男の人が  
性欲感じないなんて  
可哀想だよ

だから私がこうして  
一肌脱いで元氣だして  
もらおうとしてるわけ

でも

ちようど  
良かったわ

時津風  
アಂತタも  
脱ぎなさい

やああああ

そ…そんなの  
慰安所があるんだから  
そつちに行けば  
いいでしょ!

あそこにいるのは  
まだ自分の足で  
歩けない人達なの

時津風  
思い出して  
ガ島撤退の時の  
兵隊さん達の姿を

私たちに  
出来ることで  
元氣づけて  
あげようよ

♪ 朝だ！  
夜明だ！  
潮の息吹！

♪ うーんと吸い込ーむ  
あかがね色のー



胸に〜若さの〜  
みなぎ〜る  
誇り〜

海〜の娘の  
艦隊勤務

月月火〜水  
木ツ金 金〜

ぼ  
しゃ

ぼ  
しゃ

何やつてるん  
ですか  
アナタ達はー!!

わ  
わ

お  
お







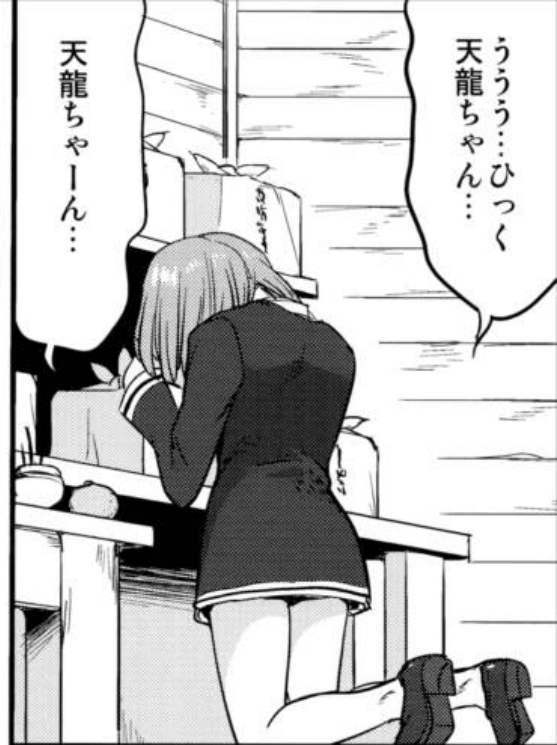






分かるわけ無いでしょ  
そろそろ終わるん  
じゃないの？

時津風  
戦争っていつ  
終わるのかな？



ううう…ひつく  
天龍ちゃん…

天龍ちゃん…

**アメリカ 無制限潜水艦作戦**

この時期ヨーロッパ戦線ではソ連のスターリンググラードでドイツ軍が大敗し後退を始めていたが日本はまだほぼ最大占領圏を維持していた

ソロモン諸島のガダルカナル島とニュージョージア島の間で対峙

ニューギニアのワウとサラモアの間で対峙

アリューシャン列島のキスカ島とアムチカ島の間で対峙

ビルマのアクヤブ郊外で対峙

ビルマ北部にウインゲート空挺部隊が侵入しゲリラ活動中

無制限潜水艦作戦では42年末までに日本の輸送船約100万トンの230隻を撃沈していたが（日本の建造は26万トン）潜水艦長出身のニミッツは大西洋でのドイツUボートの2ヶ月分に過ぎないこの数字に全く満足できなかった

ニミッツは積極性に欠けるとして艦長の1/3を解任しリスクを犯して攻撃した時の報酬を引き上げた

さらに不発が多く不評だった魚雷を構造が複雑な磁気信管から単純な直接信管へ戻すよう指示した

**直接信管**  
衝突で爆破  
命中角度が限定

**磁気信管**  
磁力の反応で爆破  
どんな角度でもOK  
艦底を破壊できる

翌2月21日  
荒潮の曳航中に  
大潮は船体が断裂し沈没した

大潮がんばって！  
沈むんじゃないわよ

相手は先日「天龍」を撃沈した  
ガトー級潜水艦「アルバコア」

2月20日  
輸送船護衛中の  
第8駆逐隊「大潮」が  
マヌス島沖で  
雷撃を受けた

マヌス島  
第8駆逐隊  
ラバウル

アメリカの戦時生産体制への移行はフランスがドイツに敗れてから加速していたが自ら参戦するに及んで本格化し何度かの政府管理組織の改編を経てこの頃までに完成していた

政府が工場を建設し民間に年1ドルで貸し出し軍需への設備投資には短期間での減価償却を認め税を優遇した

日本に抑えられたゴム産地に代わり石油から作る合成ゴムの研究生産も政府主導で進められた



アメリカは一つの巨大な軍需工場として機能し始めた

軍需品の売れ残りがなく確実に利益が出せるため全米の工場が参入し

この巨大な生産能力は戦後になると民需へ移行し荒廃したヨーロッパとアジア相手の貿易や投資で潤い世界のGDPの60%を一国で占めるようになった

同時に巨大化した軍事力は『世界の警察』として各地の同盟国に展開して維持された

アメリカを並ぶ者のない軍事・経済の超大国として現在の地位へ押し上げた

2月15日  
最前線の第8艦隊は旗艦が鳥海から復帰した青葉へ交代となった

よろしく  
お願いします

お疲れ様  
後は任せて

さて陸軍と海軍はガ島撤退後はニューギニア戦線を重視することで協定を結んでいた

ポルトモレスビー攻略をまだ諦めていなかった陸軍は前線の兵力を大幅に増強する『81号輸送計画』を立てた

海軍案  
マダン  
ラバウル  
陸軍案  
サラモア  
戦線  
フナ  
ポートモレスビー

海軍は敵の制空権外となるマダンへの輸送を提案したが陸軍は重火器や物資をジャングル内で運ぶのは困難だと前線フエへの輸送を譲らなかつた

兵員物資を載せた低速輸送船8隻に第3水雷戦隊の駆逐艦8隻が護衛に付くこととなった

旗艦は『白雪』

最前線への商船隊輸送はガ島であれだけやられたのに陸軍はまだ分からないのか

半分辿り着ければいい方だ

川内さん  
そんなこと  
言わないで  
ください！

白雪さん  
頑張りましょう

ガ島に比べたら  
近いし護衛機も  
付くからきつと  
大丈夫ですよ

16駆逐隊はいつも  
前向きで羨ましいわ



3月1日

18軍司令部も乗せた  
輸送船団は前線のラエへ  
向け出発した

ブーゲンビル島

上空は陸海軍航空隊が  
交代で護衛にあたり  
敵制空権に入る翌日には  
『村雨』『峯雲』が東方で  
陽動行為を行った

第3水雷戦隊



陽動



第2水雷戦隊

大丈夫です  
この朝潮が  
守りますから！

護衛  
頼むぞ  
駆逐隊ー！！

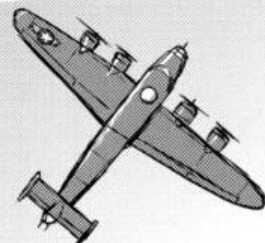
輸送船は9ノットしか出す  
船団はノットと進んでいった



9ノット＝時速16キ

船団はすでに  
B24に発見され

接触を続けられた



翌3月2日 8時

ポートモレスビーから  
B17十数機が飛来し  
爆撃を行った

護衛の零戦が迎撃を行い  
1機撃墜14機に損傷を与えたものの  
『旭盛丸』が撃沈された



ラバウルで待機中だった  
『初雪』にも出撃命令が出た

船団が攻撃を  
受けてきます

だから  
言わんことじゃ  
ないんだ



現場で救出に当たった『雪風』と『朝雲』  
は快速を飛ばして先にラエへ向かい

輸送船団

夜の間に  
武器を失った兵員だけを降ろし  
明け方に再び船団へと戻ってきた

雪風 朝雲

サラモア

雪風達が戻った  
3月3日朝 7時30分

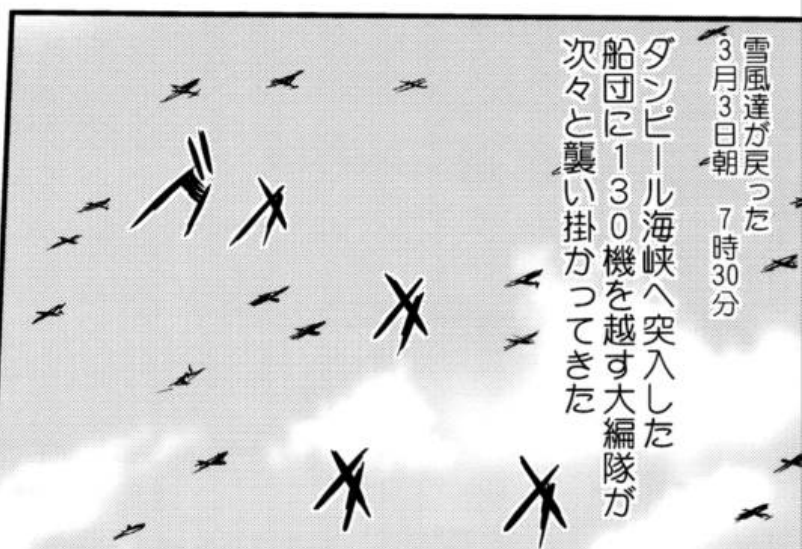
ダンピール海峡へ突入した  
船団に130機を越す大編隊が  
次々と襲い掛かってきた

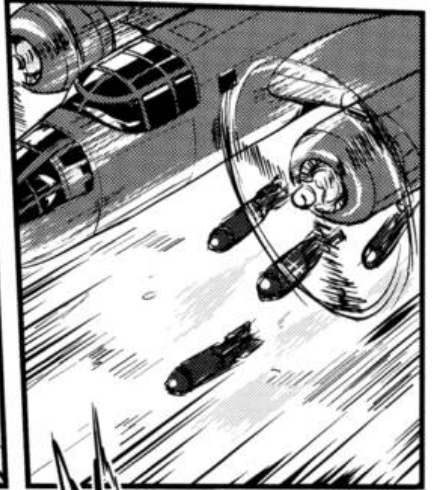
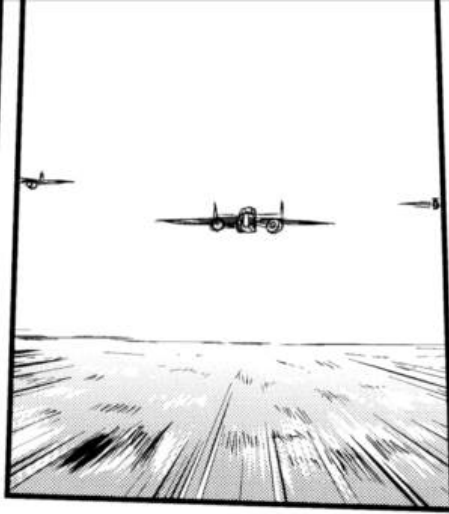
護衛の零戦は41機

頼むわよー

敵を落として  
くださいー！！

B17の撃墜を優先し  
高度を上げていった









この攻撃は

いつたい何なの



オキオキ

アメリカは爆撃の命中率を改善する研究を続けていたがイギリス空軍がダムを破壊するのに使った方法を取り入れたのがこの日実行したのがスキップボミング

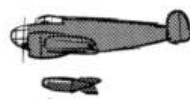
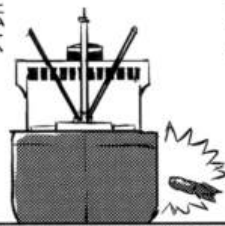
**反跳爆撃であった**

爆弾を水面でバウンドさせ直接ぶつける方法で水平爆撃や雷撃に比べ狙いが簡単で弾の速度も早く攻撃の命中率は飛躍的に向上した

一旦発射されたら駆逐艦ですら操船で避けるのは困難でまして輸送船は止まった標的の同然となり初弾から次々と命中した

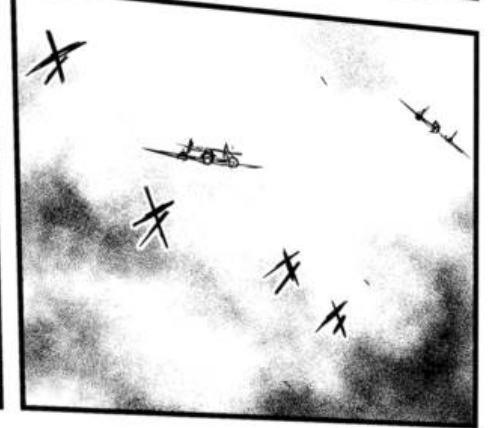
ただこの方法は低空から低速で直進するため対空砲火の餌食になりやすい弱点があったが

アメリカは日本の駆逐艦の対空装備が貧弱なことを掴んでいてこの日42機がこの攻撃を実行した



ダンピール海峡は海に投げ出された数千人とカッターボートや救命筏30隻が漂流していた

駆逐艦「白雪」「荒潮」「時津風」が沈没 輸送船は2隻沈没1隻損傷



頼みだった護衛の零戦はB17を1機P38を3機の撃墜に留まった

連合軍機は続けて海上を漂うカッターボートや救命筏への機銃掃射を始めた。この方面の戦いは報復が報復を呼ぶ『谷赦なき戦場』と化していた。2時間ほどの攻撃で現場を血の海にしてようやく敵機は去って行った



また来たのか！ クソツ 護衛機もないし

しかし10時になると再び敵機接近の知らせが入った

やむをえないわ 救助作業は一時中断 駆逐艦は全速で北へ退避せよ



残った駆逐艦は全員救助活動にかかれ！

白雪さんがやられたので只今より『敷波』が指揮を執る



雪風！ 無事だったのね

何なのこれ 信じられないわ

ほしゃほしゃ





退避だ  
急げ!

朝潮  
何している



悪いね

私は輸送船を  
守るって  
約束したの



救出の再開は  
暗くならないと無理ね  
一旦ラバウルに  
戻りましょう

間に合わな  
かったか

北上中の駆逐艦4隻は  
駆けつけた初雪と合流



駆逐艦「朝潮」と  
輸送船3隻が沈没  
損傷した残り2隻も  
その後魚雷艇などに沈められ  
輸送船団は全滅した

駆逐隊が退避した直後  
残った船に  
54機が次々襲いかかった



朝雲  
入りますッ



司令部はなぜ

こんな無茶な作戦を立てるんですか?

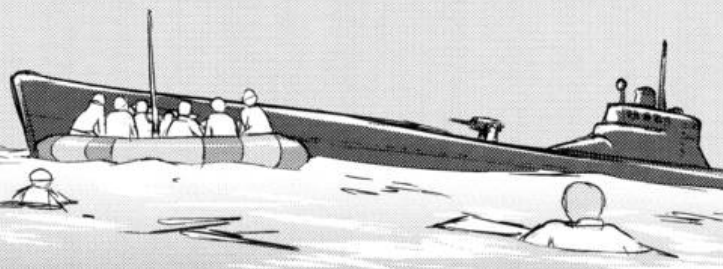
日本人を滅ぼすつもりですか!?

やめろ! 軍法会議になるぞ

もつと考えて作戦を立ててください!



現場付近の救出活動はその日の夜から始まり潜水艦などで9日まで続けられた

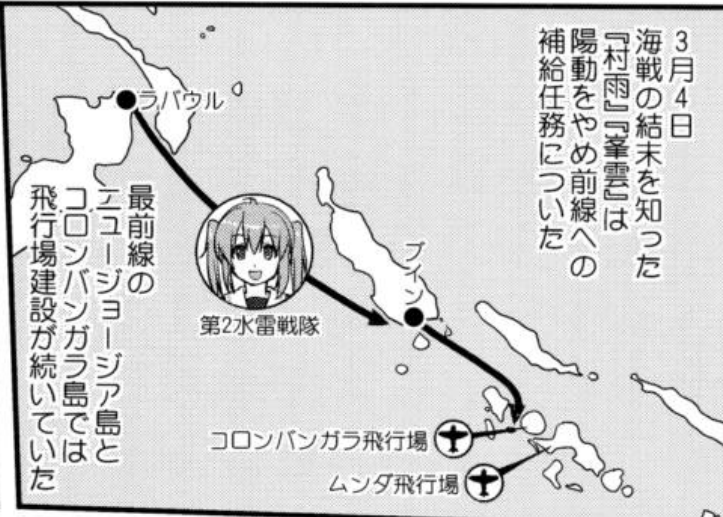


結局51師団7000名の内ラエハ辿り着いたのは雪風達を送り届けた丸腰の900名だけで3000名が戦死

武器と補給物資も失われ18軍司令部も上陸できずラバウルへ引き返したこの無残な輸送作戦は『タンピールの悲劇』と呼ばれた

ビスマルク海海戦

3月4日海戦の結末を知った『村雨』『峯雲』は陽動をやめ前線への補給任務についた



最前線のエニュージョージア島とコロンバンガラ島では飛行場建設が続いていた



ちよつとこの日もまた砲撃部隊が海域へ向かっていた

21時30分 無事にドラム缶の海上投下を済ませた村雨らは全く気づがずに帰路についた

コロンバンガラ島

ニュージョージア島

哨戒機から情報を受けていた米艦隊はいち早くSGランナーで2隻を捉えていた



なんなの敵機!?

峯雲どこ?



最初の攻撃ですでに大きなダメージを受けた2隻は村雨がわずかには撃ち返したものの一方的に攻撃され沈没した

米艦隊は予定通り艦砲射撃を行った後帰投した

ピラ・スタンモア夜戦





立て続けに駆逐艦6隻を失った海軍と戦略師団の第51師団を失った陸軍のシヨックは大きかった

駆逐艦が夜戦でやられるとは何てザマだ

村雨達はたるんでおったのだ



第1次ソロモン海戦やルンガ沖での第15駆逐隊の活躍を見るがいい

陽炎ウチら褒められとるで

まあね



この状況で山本は航空決戦を行う決意を固めていた

この方面の敵航空戦力を撃滅する

使用可能な全ての航空機を集める

太平洋戦争最大の航空作戦『I号作戦』である



だが陸軍航空隊は攻勢に参加しなかつた

陸軍参謀本部はガ島以来の戦況を検討し航空戦略を大きく変更した

アメリカとの戦いは航空撃滅戦で決着を付けるようなものではない根比べの消耗戦だむやみな攻勢は控えるべき

とにかく戦闘機だ十分な数の戦闘機を絶えず補充しなければ

他の機種を減らして戦闘機の生産数を上げ

同時に優秀な新型戦闘機の開発にも力を入れて『戦闘機編重主義』というべき体制へ移行を進めた



さでアリユーシヤン方面の2島はミッドウェイ作戦の陽動として6月に占領して以来、

キスカ島  
アッツ島  
ソ連  
占守島  
幌筈島(第5艦隊)  
10/17『龍』沈没『初春』大破

現地部隊への補給が続けられ輸送中に損害も出ていた

特に何をしてもなく

だが43年2月になると米艦隊が海域に進出してきたため大本営は守備隊の増強を決定

第5艦隊は3月10日に第一次輸送作戦を行い成功させた

札幌 北方軍司令部

そして3月27日新指揮官山崎大佐を乗せた第二次輸送作戦が行われたが偶然哨戒中の米艦隊と遭遇この方面最初で最後の艦隊戦が勃発した

輸送船団(第5艦隊)  
第1水雷戦隊  
8任務部隊

電船団を率いて北へ退避しろ!

はいです

多摩 阿武隈 反転して迎え撃つぞ私と摩耶に続け!

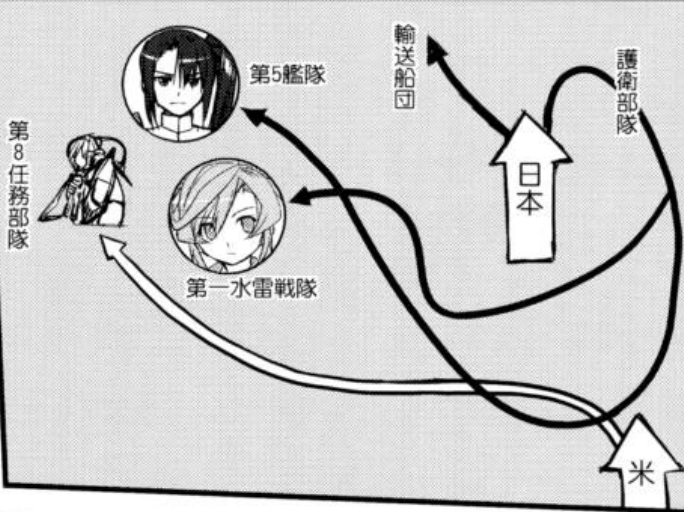
日本は18kmの遠距離で射撃開始 米艦隊は応戦しつつ輸送船団の方を追った

距離が狭まる間に互いに数発の命中弾があり

重巡『ソルトレクシディ』は機関に損傷を受けた



その後は3時間ほど鬼ごっこ状態となり双方有効弾も出ず海戦はタラタラ続いた



阿武隈と雷が一時接近したが敵の砲火が集中すると速度を落とし再び距離が開いた



やる気あるのか阿武隈は!

そのうち米艦隊もソルトレイクシティの機関の調子が悪化したため輸送船団を諦めて南へ退避をはじめた



好機だ!

だが米駆逐艦はソルトレイクシティを守るため煙幕を張った後前へ飛び出し果敢に雷撃を行った



そこへ偵察機から敵機が向かっているという情報が入った(誤報)



第5艦隊は戦闘も輸送も中止しそのまま幌筈へ帰投した  
追い詰められて覚悟した米第8任務部隊のマクモリス少将は何もせず目の前を去っていく日本軍を見て唾然としたという

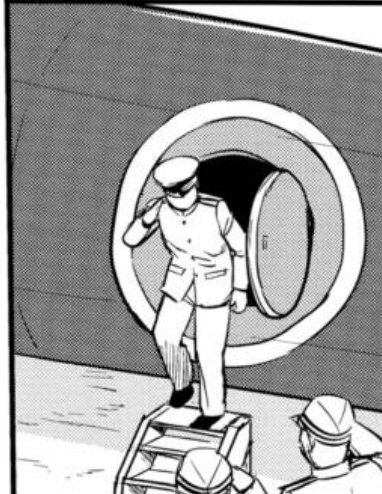
結局4時間に渡り  
那智832発 摩耶904発  
ソルトレイクシティ832発  
他の艦も無数の弾を撃ち合い  
日本の魚雷43本も全て外れ  
互いに喪失艦なしでの引揚げとなった

こんな間の抜けた牛のヨダレみたいは初めてなので

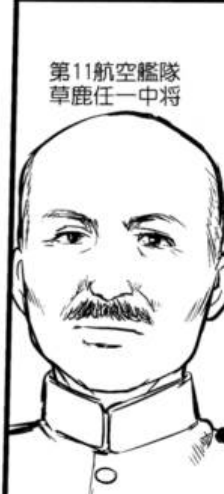
軍令部はこの結果に怒り艦隊司令の細萱中将を更迭した

アッツ島沖海戦

4月3日  
山本は「い号作戦」を指揮するため司令部と共にトラックを出てラバウルへ到着した



これは現地で航空作戦を指揮してきた第11航空艦隊司令部にとつて面白いことではなかった



第11航空艦隊 草鹿任一中将

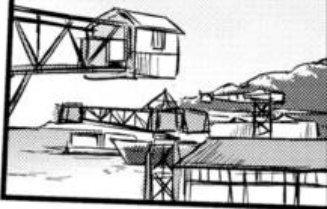
第3艦隊の小沢提督も空母機動部隊の艦載機を地上基地の作戦に使うのは反対だった

せっかく空母の発着艦訓練を積ませるのに

とはいえ連合艦隊司令長官の命令なので航空機は可能な限り集められた







え？

山本提督自ら  
航空作戦の  
指揮を？



そうじゃ  
我軍の航空戦力を  
結集していよいよ  
空の大攻勢に出られる  
そうじゃ



そんなバクチに出て  
敵を叩いてもアメリカの  
工業生産力では  
すぐに回復します

逆に日本が  
大きな損害を  
出したら取り返し  
がつかません  
そんなこと  
提督は十分  
ご存知のはず



…いや

それでも  
もう張るしかない



勝ちたいの  
ならば



勝ちたいの  
です  
ねえ  
テートク

…このままアメリカに  
時間を与えれば与える程

大勝利ですら  
意味がなくなっていく

勝ってください

勝って  
小賢しい不知火の  
予想を覆してください



作戦開始までにラバウル、ブカ、フィン、パラレの4つの飛行場に  
基地航空隊205機  
空母艦載機183機  
合計388機が集結した  
作戦予定期間は  
4月5日〜20日



すごいわね  
我が軍は！

ガンバレ！  
今度はアメリカが  
空に怯える番よ！

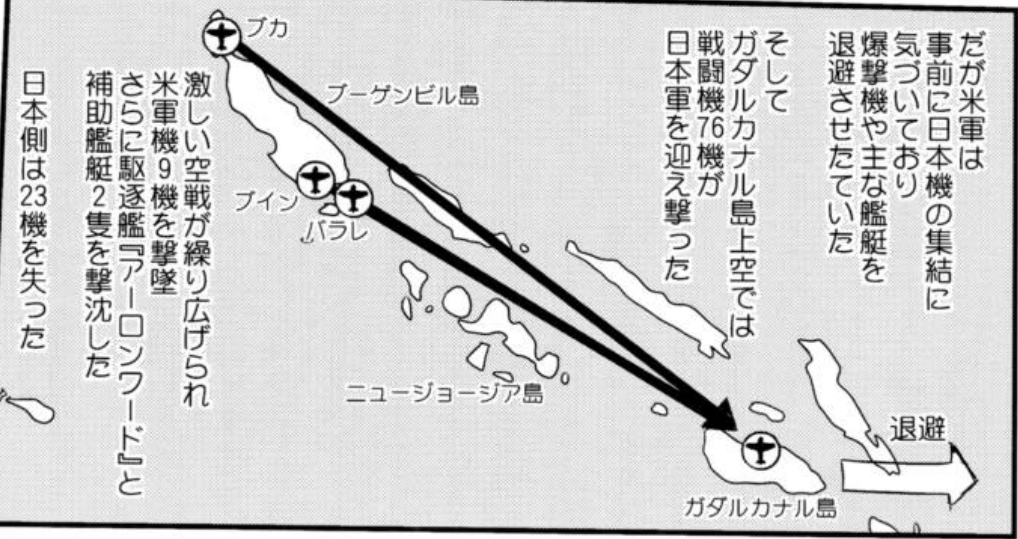
天候の都合で2日遅れた  
4月7日

遂に『い号作戦』は発動した

まずは因縁のガダルカナル島  
ヘンダーソン飛行場へ  
真珠湾攻撃の第一次攻撃隊を上回る  
2,23機の大編隊が襲いかかった

だが米軍は  
事前に日本機の集結に  
気づいており  
爆撃機や主な艦艇を  
退避させていた

そして  
ガダルカナル島上空では  
戦闘機76機が  
日本軍を迎え撃った



長官  
初日の戦果です

撃沈が巡洋艦1 駆逐艦1  
輸送船6  
撃墜が41機です



23機の喪失か

戦闘機の実力が  
開戦時より大幅に  
落ちてるのでは  
ないでしょうか



よくやった

明日からも  
しっかり頼むと  
伝えてくれ



4日後の4月11日  
連合軍に奪われた  
ニューギニアのブナを93機が攻撃  
それを連合軍戦闘機50機が迎え撃った





翌4月12日  
今度はポートモレスビーを  
177機が攻撃  
連合軍44機が迎え撃った



15機を撃墜  
基地の燃料タンクなどを  
炎上させた

日本側は9機を失った

本日の戦果は  
撃沈 輸送船1  
撃墜 28機です

そうか

参謀長  
作戦が終わったら  
皆の働きを労うために  
前線基地を回ろうと思う



『い号作戦』の期間中  
前線への補給輸送は  
損害もなく順調に進んだ

鬼のいぬ間に  
何とやら!

攻めてる時は  
輸送も楽ね



2日後の4月14日  
海軍陸戦隊が撃退されたラビを  
190機が攻撃  
連合軍40機が迎撃した



戦果報告は  
撃沈 輸送船5  
撃墜 44機

貨物船1隻を撃沈  
3機を撃墜  
日本側は11機を失った

さらに2日後の4月16日  
戦果の少なかつたブナへの  
再攻撃が予定されていたが  
山本は突然  
攻撃中止命令を出し

『い号作戦』  
終結宣言を行った

作戦終了後にまとめられた結果は

撃沈 巡洋艦1 輸送船19

撃破 駆逐艦2

輸送船8

撃墜 134機

日本側の損失61機

連合艦隊司令部は  
作戦の成功を祝った  
だが搭乗員の中には  
日本の損害の方が  
大きかつたのではと  
疑っている者もいた

この後の山本の行動に  
連合艦隊参謀長宇垣纏は  
不穏なものを感じていた



山本は  
前方に手紙を書き  
身の回りの物を  
内地へ送らせた

前線を回るのは  
やめた方がいいという  
第8方面軍今村将軍の  
忠告にも  
従わなかった

陸軍の士気を  
気にしておられるのなら  
檄文でも頂けば十分です

第11航空艦隊草鹿中将の提案も  
聞き入れなかった

護衛が6機では  
少ない  
50機を手配します

予定通りでいい

普段と似合わない  
楽観的な発言を行い  
軍司令部にも報告した

『敵ノ意表ヲ衝キ  
大ナル打撃ヲ与ヘ反攻意図ヲ  
防遏シ得タルモノト認ム  
当面今後の基地航空兵力  
増強ノ要切ナルモノト認ム』



4月18日  
山本ら連合艦隊首脳部は  
予定通りラバウルから  
前線基地へ向けて  
飛び立った



しかしアメリカは5日前に打たれた  
基地へ訪問を伝える暗号文を  
すでに解析していた



アメリカはハウンズに謀報部を設置し  
数千人のスタッフがいり24時間態勢で  
日本の暗号通信の解析にあたらせていた  
総当りの暗号解読は人数が重要だった

この頃には海軍の暗号文の多くが  
IBMの大型計算機に打ち込めばすく  
に平文で出るまでにはなっていた

海軍の暗号は  
単語や文字を5桁の数字で記載してある  
『暗号書D』で作った文章に乱数表の数字  
を加えて作られていた

さらに地名などは別に定められた  
アルファベットの略号を使った

数字は数ヶ月毎に更新されていたが  
方式は基本同じなのでパターンが  
分かればその都度解析が可能だった

連合艦隊司令長官  
**58361**

+

1234567890  
0987654321  
1234567890  
0987654321

暗号書D

乱数表

送信暗号

||  
**02682**

この『暗号書D』は  
末端にまで配られて  
いてアメリカは  
浅瀬で撃沈した  
潜水艦から回収した

42年1月20日『伊124』	43年1月29日『伊1』
12月9日『伊3』	

一方陸軍は日中戦争から謀報活動に  
力を入れ暗号書の取扱を厳重にしていた

さらに乱数もその場で決めて通信に組込む  
使い捨て(ワンタイムパッド)方式を  
採用したため言語パターンなどからの  
解析は不可能だった

戦争末期に暗号書が奪われるまで破られず  
戦後GHQに「パーフェクト」と評された

陸軍はこの方式を海軍にも勧めたが  
暗号文が長く複雑になるため数字の更新  
だけで十分として採用しなかった  
海軍は兵器性能の機密保持などには熱心  
だったが武士道精神から下忍の仕事  
である謀報活動を低く見る風潮もあった

山本機の情報をつんだ謀報部長  
レイトン中佐は暗殺するチャシヌだと  
一ミッツに報告した

暗殺して  
彼より優れた人物が  
長官になったら  
困るのではないか

日本に暗号解読も  
知られてしまう  
それに見合う価値が  
ヤマモトにあるのか

ヤマモトは  
日本海軍で最も優秀で  
頭一つ抜け出た存在です  
後任は全て彼より劣ります

一ミッツは山本暗殺の是非を  
ワシントンの統合参謀本部に  
伝えた

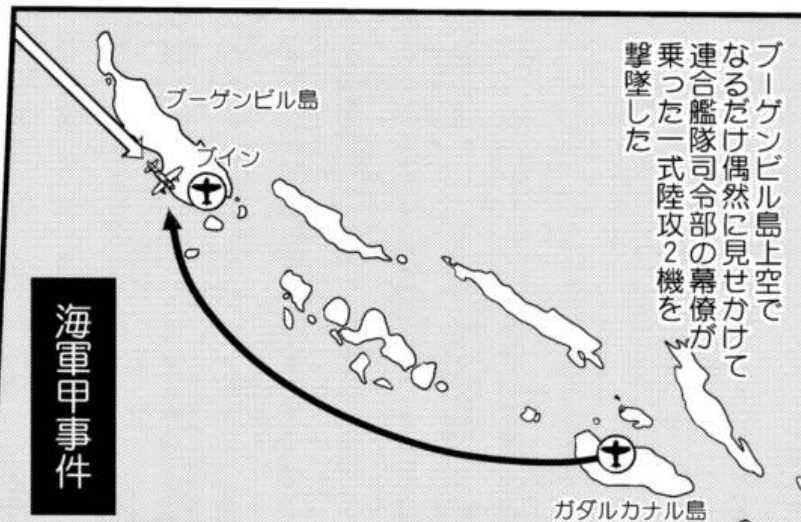


すぐに大統領にも伝えられ  
最終的にはルーズベルトが許可し  
暗殺は実行されることとなった

4月18日 7時50分頃

ハルゼーは航続距離の長い  
P38を16機向かわせ

ブーゲンビル島上空で  
なるだけ偶然に見せかけて  
連合艦隊司令部の幕僚が  
乗った一式陸攻2機を  
撃墜した



海軍甲事件

海軍は全軍の士気に  
影響を与えるということで  
箱口令を敷いて山本の死を隠し  
その間に後任人事などを進めた  
アメリカも暗号解読を悟られないよう  
山本を撃墜したとは発表しなかった  
そのため山本戦死の情報は  
1ヶ月ほど表に出なかった





# 山本五十六は死んだ

## テートクは名誉の戦死を遂げられた



4月21日  
連合艦隊司令長官の後任に  
横浜鎮守府の司令長官だった  
古賀峯一が就任した



古賀は物事を冷静に見るタイプで  
トラックの司令部に着任すると  
幕僚達を集めて言った

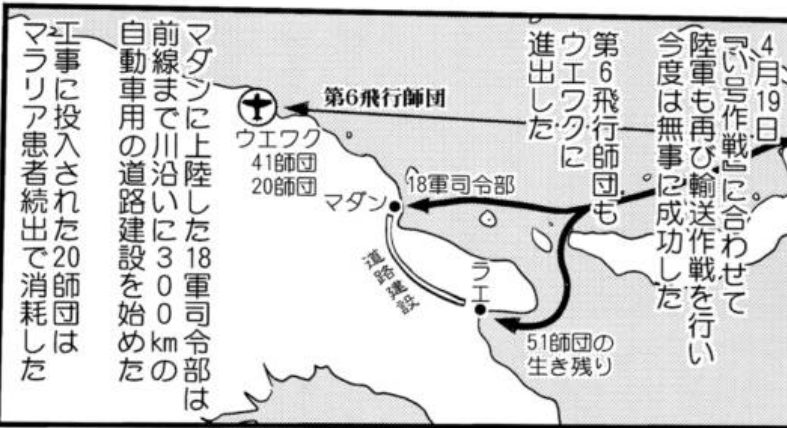


もはや三分の  
勝ち目もない

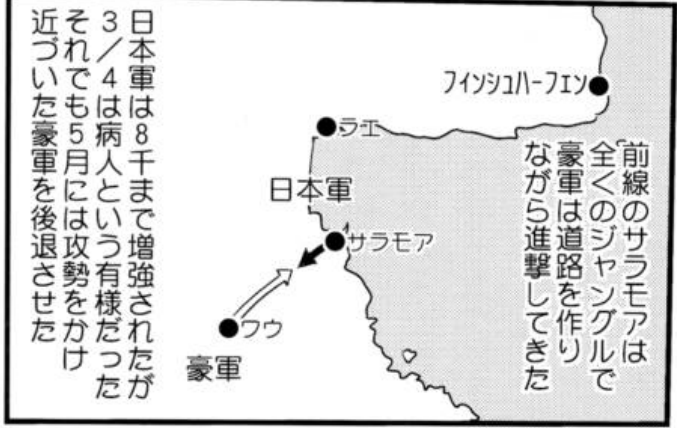
古賀は  
ある意味山本という男の個性に  
振り回されてきたこれまでの  
攻勢中心の方針を改め

海軍が長年準備してきた  
西太平洋へ米艦隊を引き込んで  
有利な決戦を挑む戦略へ回帰した  
以後、連合艦隊と軍司令部の  
確執は解消した

4月19日  
『い号作戦』に合わせて  
陸軍も再び輸送作戦を行い  
今度は無事に成功した  
第6飛行師団も  
ウエフクに進出した  
18軍司令部は  
ラエ  
51師団の生き残り  
マダンに上陸した18軍司令部は  
前線まで川沿いに300kmの  
自動車用の道路建設を始めた  
マラリア患者続出で消耗した



前線のサラモアは  
全くのジャングルで  
豪軍は道路を作り  
ながら進撃してきた  
日本軍は8千まで増強されたが  
3/4は病人という有様だった  
それでも5月には攻勢をかけ  
近づいた豪軍を後退させた



4月24日  
第8艦隊旗艦に就任早々  
カビエンで爆撃を受け  
大破した青葉は川内の曳航で  
再び内地へ戻った  
何のために  
来たのかよ  
情けないよ  
川内  
そういうことも  
ありますよ  
戦争やってるんだから



5月3日  
『い号作戦』で多くの艦載機を  
失った第3艦隊も  
残機を全て2航戦に渡して  
1航戦は航空部隊を  
立て直すために内地へ戻った  
瑞鶴はん  
やれやれ  
また編成の  
やり直しだわ



4月29日～5月8日

ジャングル生活での  
栄養不良や伝染病で  
戦力が低下していた  
ソロモン前線部隊の  
補充交替のため

6回に渡る  
輸送計画が行われた

この輸送部隊が毎回同じルートを  
通るのに気づいた米軍は  
密かに機雷敷設艦を派遣し  
狭い水道部分に250個の  
機雷を設置した



第2水雷戦隊

コロバンガラ飛行場

ジョホール水道

ムンダ飛行場

きやあ



5月7日  
第5次輸送を済ませて帰路についた  
15駆逐隊の『親潮』が触雷

親潮！

陽炎  
魚雷や！

潜水艦がおるで

続いて『陽炎』が触雷



どこや！

どこに  
おるんや！

顔見せん  
かい！



き…機雷か

この私達が  
機雷なんかで…

黒潮は轟沈  
大破した親潮、陽炎も  
翌日まで沈没した  
ルンガ沖で活躍した15駆逐隊は  
一日で全ての艦を失い解散した

5月10日  
舞鶴海軍工廠

まいったく  
遅いんだから





5月10日  
駆逐艦「島風」竣工



やっと出来た

島風  
具合はどうだ

悪くないッスね

そうか  
高性能駆逐艦の開発は  
お前で最後だ

海軍はこれから  
簡単で安く量産できる  
駆逐艦しか作らない

お前はこれまでで  
最高の成績だった

最後にして最高の  
駆逐艦だ!



いつの間にか海戦は  
優れた艦と水兵の  
戦いじゃなく

レーダーで敵を見つけ  
先にたくさん飛行機を  
飛ばした方が勝ちみたい  
な戦いになっちゃった

オレの仕事も  
終わりだよ

これから戦うのに  
萎えること言わないで  
欲しいッス



だま

マルセン  
戦計画

- 輸送船 32隻
- 輸送潜水艦 19隻
- 魚雷艇 480隻
- 海防艦 330隻
- 哨戒艇 390隻
- その他 1301隻

海軍は相次ぐ船舶の喪失のため  
18年度の建艦計画で当面必要な多くの  
小型艦艇を造る『戦計画』を立てた

これらの建造を優先し  
『改訂計画』のスケジュールに  
割り込ませため新型重艦の建造は  
さらに遅れることになった

5月12日

アリユルシヤン方面で  
動きを活発化させて  
いた米軍は

日本に奪われていた  
唯一のアメリカ本国  
の奪還作戦に出た

まず日本が防御を  
固めていた前線の  
キスカ島でなく  
後方のアツツ島へ  
奇襲上陸を行った





この時山本の遺骨も内地へ運んだ

敵艦隊出現の報に接した古賀司令長官は横須賀に内地の艦隊集結を命じ自らもトラック島から『武蔵』以下艦隊を率いて出撃した



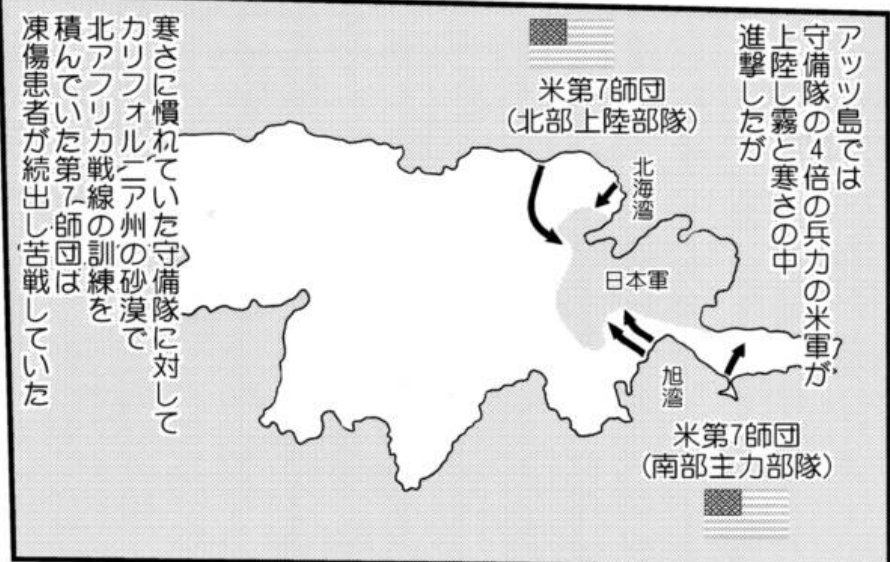
幌筵からは『摩耶』『白雲』が出撃したが濃霧で引き返した

クンが何も見えねえ!



16日に山崎大佐は救援を要請し戦線を縮小して上陸地点を抑え援軍の到着を待った

だが一方的な爆撃と艦砲射撃さらに戦車も投入され日本軍陣地は徐々に切り崩されていった



寒さに慣れていた守備隊に対してカリフォルニア州の砂漠で北アフリカ戦線の訓練を積んでいた第7師団は凍傷患者が続出し苦戦していた

アツツ島では守備隊の4倍の兵力の米軍が上陸し霧と寒さの中進撃したが



これも濃霧のため27日に途中待機となった

5月20日 幌筵基地では第5艦隊が出撃準備を済ませていた

25日には第1水雷戦隊が米軍上陸で輸送途中に引き返していた部隊と物資を乗せて再び出撃したが

木曾さん 無理だよこれ

うーむ



代わりにキスカ島の救出作戦には海軍が無条件で協力する

山崎を見殺しにするつもりか!

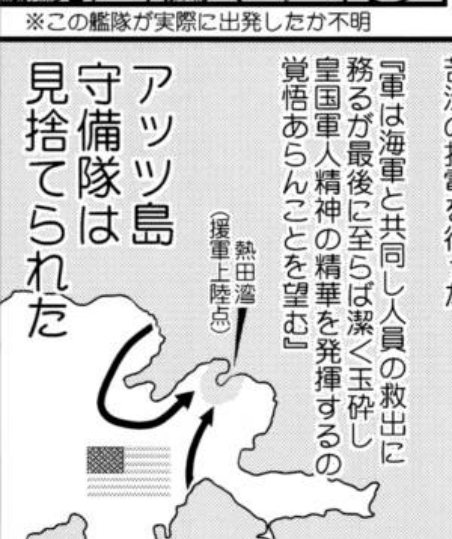
5月18日 大本営はアツツ島の放棄を決定 札幌の北方軍に伝えた 軍司令官の樋口中将は激怒した



北方2島に犠牲を払ってまで確保する価値はない

敵制空権下への増援輸送はガ島の二の舞いになる

しかし大本営海軍部では援軍派遣に反対意見が多かった



アツツ島 守備隊は見捨てられた

熱田湾 (援軍上陸点)

『軍は海軍と共同し人員の救出に務るが最後に至らば潔く玉碎し皇国軍人精神の精華を発揮するの覚悟あらんことを望む』

5月23日 北方軍は守備隊へ向け 苦渋の打電を行った



艦隊がすぐに使える燃料は30万トしかなかった (一度の大きな作戦に必要な燃料は50万トと試算されていた) すぐに決着が付けばいいが、戦いが長引くと向こう数ヶ月艦隊は動けなくなる。そこでまず潜水艦を偵察に派遣することとなった



横須賀

第3艦隊 連合艦隊直卒

5月22日 横須賀に古賀長官の艦隊と第3艦隊が集結したがここで問題が起こった。ガ島戦で大量の輸送船を喪失したため南方からの資源輸送が滞り内地の石油備蓄が不足していたのだ

※この艦隊が実際に出発したか不明





5月28日  
海軍からの援軍(木曾・阿武隈ら)が向かっているという連絡を望みに守備隊は最後の奮戦をしていたが予定時刻になっても遂に援軍は現れなかった

翌29日  
食糧弾薬共に尽きた守備隊は、決別の電報を打つと負傷者を処分し残った山崎隊長以下軍人軍属300名が米軍陣地に突入して全滅した

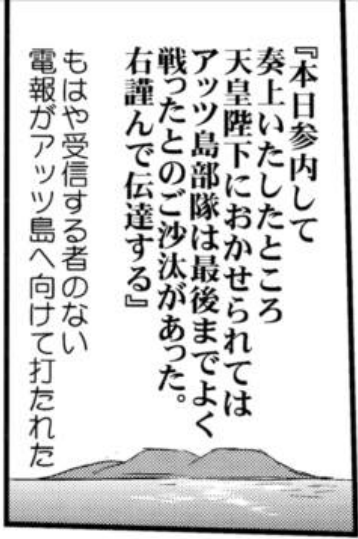
5月30日  
守備隊全滅は杉山参謀総長によって天皇に奏上された



よくやったと  
守備隊に電報を打て

陛下  
もう無線は  
通じません

それでもいい  
打つんだ



『本日参内して  
奏上いたしたところ  
天皇陛下におかせられては  
アツツ島部隊は最後までよく  
戦つたとのご沙汰があった。  
右謹んで伝達する』

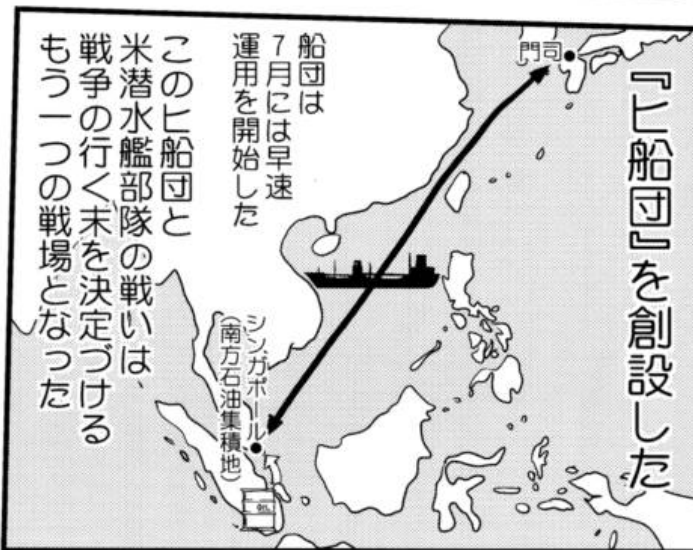
もはや受信する者のない  
電報がアツツ島へ向けて打たれた

大本営は  
山崎大佐を2階級特進させ  
一度も援軍を求めず『玉砕』した  
『軍神』と持ち上げて発表した

今回の件で内地の石油事情悪化に  
危機感を抱いた海軍と政府は  
通常のシーレーンの他に

門司-シンガポール間を直行する  
石油輸送専用の大型高速タンカー  
の船団

『「船団」を創設した』



船団は  
7月には早速  
運用を開始した

この「船団」と  
米潜水艦部隊の戦いは、  
戦争の行く末を決定づける  
もう一つの戦場となった

シンガポール  
(南方石油集積地)



5月31日 御前会議で  
『大東亜政略指導大綱』が決定

8月にビルマ独立

11月にフィリピン独立

と同時に『大東亜会議』を  
開催することとなった

広島県 柱島泊地



ホラ  
長門様にお礼は?

ありがとうございます  
ございます

陸奥さん  
頑張って鬼畜米英を  
倒してください!

僕も大きくなったら  
海軍に入ります!

ありがとう  
頑張るわね

極秘兵器として表に出なかった  
『大和』『武蔵』に対して  
『長門』と『陸奥』は  
帝国海軍のシンボリック的存在で  
国民的な人気艦だった

姉さん  
もっと愛想よく  
しないと

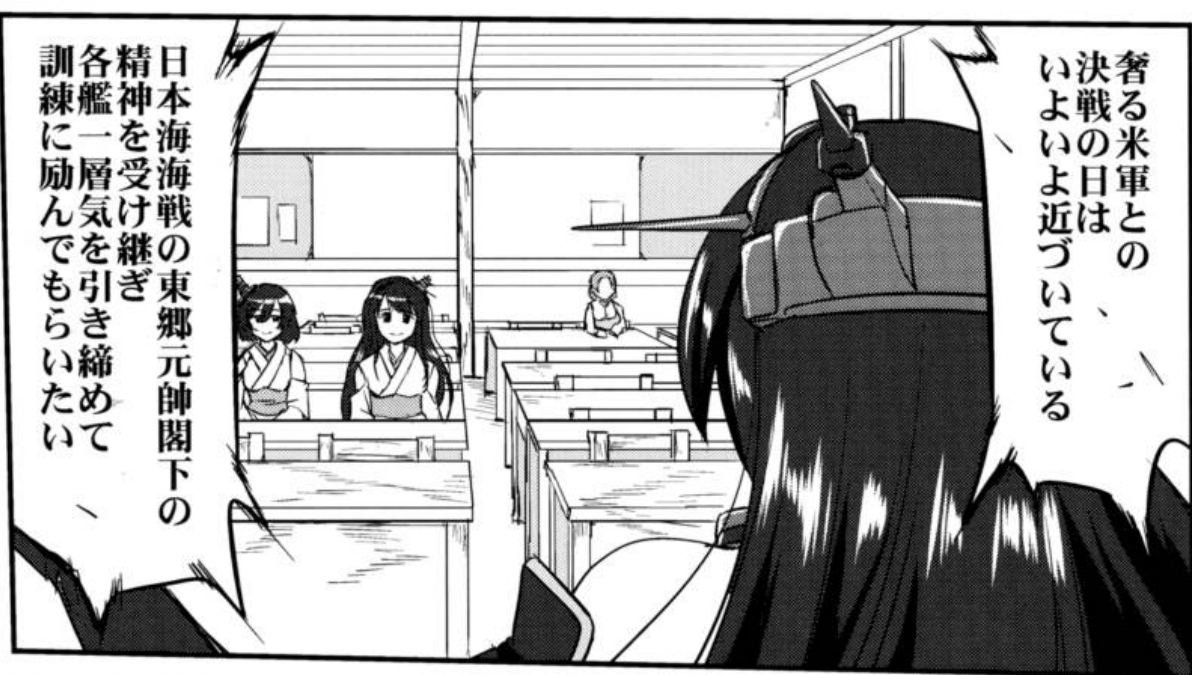
うむ：  
まあな





古賀司令長官は  
第3次作戦において  
西太平洋にて決戦を行う  
決意を固められた

すなわち  
我々が長年準備してきた  
漸減邀撃『Z作戦』である！  
場所はここマーシャル諸島



奢る米軍との  
決戦の日は  
いよいよ近づいている

日本海海戦の東郷元帥閣下の  
精神を受け継ぎ  
各艦一層気を引き締めて  
訓練に励んでもらいたい



本当はもう

艦隊決戦なんて  
起きないんですか  
ないんですか



本日は以上

午後はそれぞれの  
任務をこなしてくれ



長門さん





私達戦艦は提督に  
決戦に備えるように  
命令された

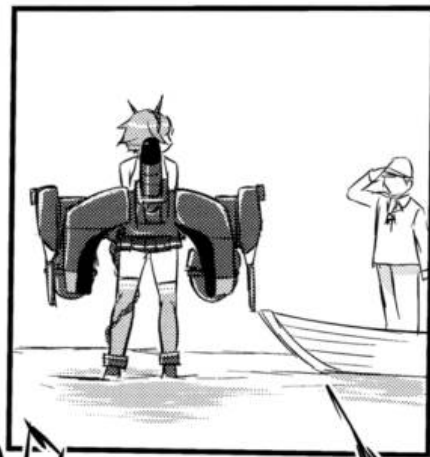
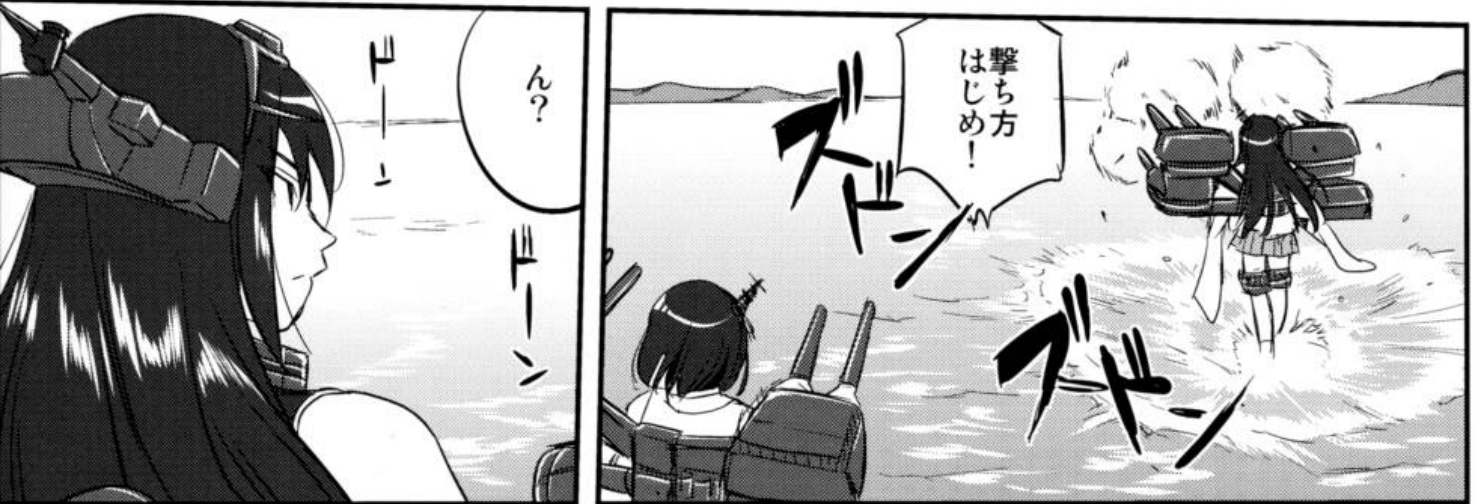


あの扶桑さんが  
反論するなんて…



軍全体が

緒戦の頃の  
高揚感を  
失ってる







全艦この場を  
離れる

敵潜の  
雷撃だ！



なに!?

え!  
爆発?

オオオオ



ウソだろ  
陸奥！

この失態の  
責任を取らされる形で  
第1艦隊の清水長官は  
罷免された

6月8日  
『陸奥』謎の大爆発轟沈  
敵潜水艦は発見されず  
その後海軍による調査が  
行われるも2ヶ月程で打ち切られ  
真相は現在に至るまで不明である  
山本長官の国葬が  
3日前に行われたこともあり  
国民に人気のある  
陸奥の沈没は終戦まで  
公表されなかった

### 『セ』作戦

6月13日 94機

3回行った攻撃で  
戦果報告の合計は  
撃沈 輸送船6隻  
撃墜 106機  
喪失43機  
となった

司令部は  
一応の目的は  
達したとしたが  
実際の戦果は  
大破 輸送船2隻  
撃墜 6機  
に過ぎなかった

逆に損害は大きく  
消耗した航空隊は  
再び戦力不足へ陥った

#### ロンガ沖航空戦

ガダルカナル島

### 『ソ』作戦

6月7日 81機

6月11日 77機

第二次攻撃

その頃  
ラバウルの第11航空艦隊は  
再編された台南航空隊(251空)などの  
補充を受けようやく戦力が回復していた  
そこで草鹿中将は海軍の  
戦闘マニュアル『海戦要務令』の  
航空機運用に従い前線の敵に  
『主力ヲ持ツテ強襲』する  
航空撃滅戦を実行した

ラッセル諸島



幸運艦？

横須賀鎮守府

連合艦隊は艦艇の対空装備  
増設を順次進めていた  
雪風は5月から戻り  
対空25ミリ機銃やレーダー逆探知機  
などの増設を受け  
6月には横須賀へ移動していた



そ  
ダンピールで一人  
無傷だった雪風は  
ちよっとした  
有名人なのデース

戦争じゃみんな  
ゲンを担ぐからネ

そんな：  
時津風に当たって  
私に当たらなかったのに  
理由なんて無いです

たまたまですよ  
たまたま

あ、タマタマと言っても男の人に  
付いてる方じゃないですよ



おまたせ

わあ

オー問宮  
何か前より随分  
小さくなって  
気がするデース

今やお国全体が  
『せいたくは敵』  
ですからね

それでも艦娘には  
まだ優先的に食材が  
回ってきてる方ですよ



おいしいツ  
横須賀に戻った時は  
これが一番の楽しみです

オー  
もうなくなった  
デース

話は変わるけど  
雪風

ブツキーの  
『アレ』をもらった  
そうじゃない



ああ  
『アレ』ですね

姉さん  
『アレ』って？

『アレ』は：  
海軍用語で  
『艦娘精神注入棒』  
平たく言えば

『張り形』デース

ねえみんな

『コレ』

白雪が吹雪さんから  
預かってただけ  
こんなの遺品と一緒  
に入れたら集まった  
親戚が大変な  
ことになるよ

クリームせんさい  
揚げだんご  
わらび餅

進億茶





ハイ  
持って  
伺いまふ!

ヤッ

ユツキー今夜  
私の部屋に  
来るネー



あ…ハイハイ  
もったいない  
捨てるなら私が

そーだよ

武士の情け  
捨ててあげた方が  
いいんじゃない



吹雪さんも  
人から受け継いだ  
みたいですね

へー  
何かどれも  
使い込まれて  
ツヤツヤしてるデス  
生々しい



オー  
ブツキー  
なんて女!

それが…  
初雪さんの話では  
この一番大きなの  
使ってたそうです



フフ…

多分この  
一番小さくて  
可愛いのが  
ブツキーのデスね

戦艦のワタシが  
駆逐艦に  
負けるわけには  
いかないのデース

さ  
始めるデス  
ユキカゼ

ふふふ  
んんん



ちゃほ



すみません  
とても形が  
良かったのでつい…

……  
そんなにジツクリ  
見なくていいネ



ゆ…雪風  
なんか…上手いネ

ちゃほ  
ちゃほ



んツ……



ふふ…  
人肌と  
触れ合うのが  
好きなんです





オ…  
OK デース

入れますよ  
金剛さん  
楽しんでください



いたたた



初めては  
テートクのために  
取っておいたの  
デース



うー  
おぼこ  
未通女  
ですか?



あ…

え?

金剛さん  
もしかして

でももう  
それも

意味がなくなつて  
しまったデス

雪風は  
経験ありデスカ

私は…上陸日に  
兵隊さんにお願  
いされると断れ  
なくて

護衛すると  
ついでに情が  
移りますよね

納得しました

すべて

私に任せて  
ください

ちやほ

そういうことなら  
愛撫はたっぷり  
時間を掛けて

はよ

ちやほ  
ちやほ

十分  
濡らしてから

はよ  
はよ

いちばん  
細いのに変えて

痛みが長引かないように

あてがったら  
身体を密着させ  
体重を乗せて  
一気に…

ん

はよ

あう



は…入った  
雪風…  
ブッキーに負けない  
大きいのが私にも  
入ったのデス

はっ  
はっ

ハイ  
金剛さん  
さすがです

初めての  
思い出は

金剛さんに  
とっても  
気持ちいい  
想い出に  
してあげたい

まず耳に  
深く指を入れて  
頭の動き自由を奪い



表情も強制して  
無理やり笑顔にさせ  
軽い嗜虐感を  
感じさせる



乳輪を甘噛みして  
乳首を立てさせて  
舌先で転がしながら  
先端をほじり



乳房全体には  
触れずに  
快楽ともどかしさを  
同時に与えて

アソコは  
太ももを使って  
全体に密着させ



張り形と太ももで  
内と外から  
陰部全体を圧迫する

そして相手の  
呼吸に合わせる  
全身を震わせる  
本人が気持ちいい  
ポイントを微調整して  
集中できるように

こちらからは  
体勢を変えず  
単調な動きに  
徹する

名付けて  
『雪風スペシャル』!!



ひや  
ひやめて  
ユヒハハ…



締め付けてる…  
金剛さん  
感じてるんだ



あははは  
何かいろいろ  
出ちやったる  
デス…



しっかりするネ  
幸運艦がこんなことで  
死んじゃダメデース!

雪風  
落ちてる!



ユキカゼ?

ありがとう雪風  
慰めてくれて





怒ってはいないけど  
言い触らしてる!!

今朝は目覚めも  
スツキリなのデース

それが雪風の奴  
メツチャ上手くてさ  
こう気持ち良くて



金剛さん  
怒ってないかな

気がついていたら  
自室で寝てたけど

うーん：  
昨日は雪風SPの  
途中で目の前が  
真っ白になって



はあ  
はい

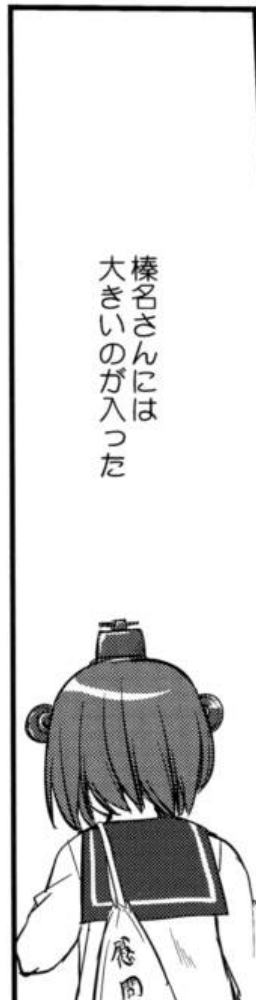


じゃあ  
明日は私で



雪風ちゃん  
今日は榛名のところに  
来て欲しいな

もともと艦娘たちは  
好奇心旺盛な田舎娘の上に  
明日をも知れない立場である



榛名さんには  
大きいのが入った



こうして  
横須賀にいる間  
雪風は請われた艦娘の  
もとを回り続けた

雪風の夜這いは  
幸運と快楽をもたらすと  
喜ばれた一方

『雪風は助兵衛』という揺るぎない  
評判を確立することとなった



さーて  
休暇も終わったし  
今日から再び  
トラック行きか

よっと



じゃあ時雨は  
休暇の間ずっと  
部屋で飲んでたデスカ

呆れた  
飲兵衛ネ

ゴォォ

いえ  
佐世保で機銃の  
増設ついでに潮岬で  
多分：敵潜沈めました

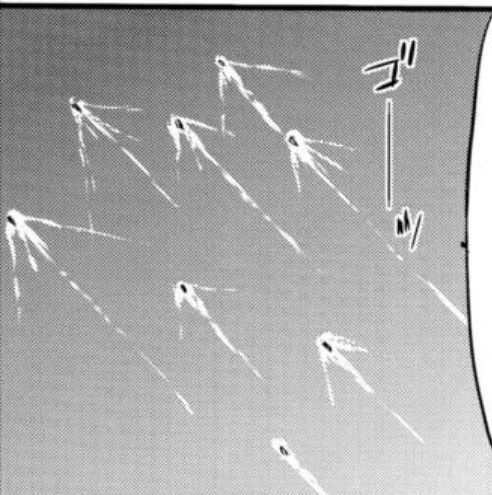


そういえば雪風とは  
作戦は一緒でも  
こうして同じ隊で  
航海するの初めて  
じゃないかな

そうですね

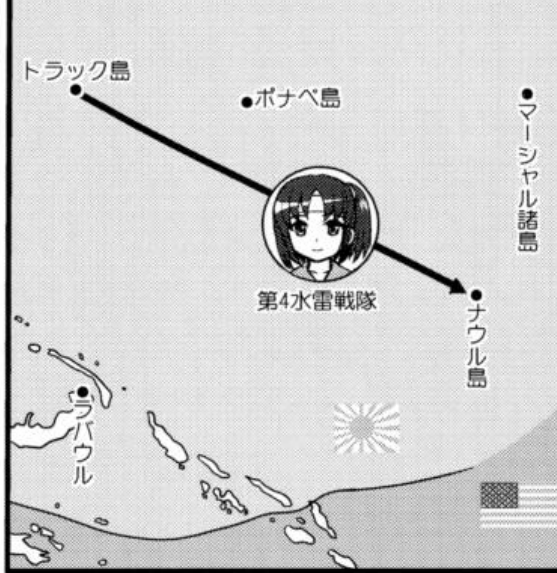


よかよか  
呉の雪風  
佐世保の時雨  
2大幸運艦がいる  
この航海は安泰  
なのデース





トラック基地に着いた雪風と時雨は  
第4水雷戦隊の指揮下に入り  
前線への輸送任務をこなした



その頃ヨーロッパ戦線では  
ドイツ軍が再び優勢を立て直し  
ソ連中部のクルスクで大兵力を持って  
ソ連軍と対峙していた

世界大戦の行く末は  
まだ予断を許さない状況で  
アメリカ統合参謀本部は対日戦に  
5年程の計画を立てていた



日本側も兵力を維持しており  
戦争はこれまでのような  
ペースで進むと思われた

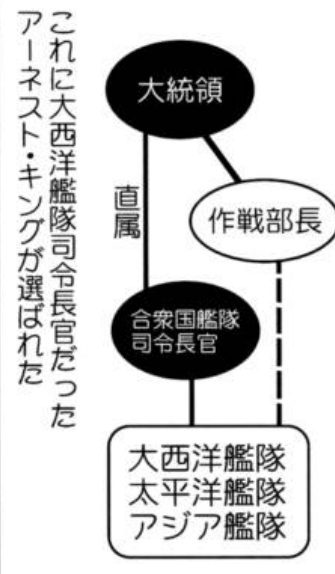
1943年6月末 5ヶ月ほど続いた対峙状態が終わり  
遂に本格的な対日侵攻作戦が開始された

# カートホイール(両輪)作戦

大戦前  
アメリカ海軍は3つに分けて運用され  
トップは作戦部長が務めていた



しかしアメリカが参戦すると  
大西洋と太平洋両面の戦いになるため  
政府の海軍長官ノックスが  
艦隊を総合して運用できるよう大統領直属の  
『合衆国艦隊司令長官』の復活を提案した



これに大西洋艦隊司令長官だった  
アーネスト・キングが選ばれた

ここで作戦部長スタークと  
大統領直属のキングの役割が被り  
権限があいまいになったため



スタークは職を辞して  
作戦部長の肩書もキングに渡し  
命令系統を一つにまとめさせた

43年にはキングの下の艦隊司令官は  
この体制となっていた



このうち太平洋艦隊はニミッツの下で  
3つの担当地域に別れていた



お前達が  
『上手くやれば  
より多くのジャップを  
殺すことが出来る』  
ジャップを殺せ!  
ジャップを殺せ!  
ジャップを殺せ!

学者肌の紳士スプルーアンスと  
体育会系の猛将ハルゼーという  
正反対の二人が  
主力の機動艦隊を交互に指揮した



キングは優秀な戦略家で  
決断力と実行力も  
持ち合わせていたが

口が悪く下品で  
傲慢な性格だった

ジャップを  
屈服させる手柄は  
海軍が独占する

戦時の海軍トップで  
ありながら女性にも  
全く人気がなかった

だが太平洋方面にはもう一人  
キングより育ちがよく洗練されているが  
傲慢さでは劣らない陸軍の大物がいた

南西太平洋方面連合軍総司令部  
ダグラス・マッカーサー

ウエストポイント士官学校を  
開校以来最高の成績で卒業

史上最年少の39歳で同校長となり  
新入生締めなどの悪習を禁止し民間から  
講師を招いて閉鎖的な校風を改革した

その後も最年少の44歳で少将  
50歳で陸軍トップの参謀総長となり  
軍の近代化を進めた

大恐慌で退役軍人達がデモを起こした時は  
かつての先輩や上官達を武力で鎮圧した

超が付く軍エリート街道を歩いた彼は  
自らを歴史的な英雄達になぞらえ  
自分でデザインした元帥帽を被り

しばしば演出を意識した言動で  
周りの者を感動させ  
あるいは苛立たせた

東洋人相手には  
傲慢に振る舞った方が  
尊敬を受ける

ルーズベルトが大統領に  
就任して軍縮政策を取った時  
参謀総長だったマッカーサーは  
大統領を訪ね  
芝居がかった態度で  
反対した

アメリカの若者が  
貧弱な装備のせいで  
泥にまみれて死ぬ時に  
マッカーサーの野郎と言わず  
ルーズベルトの野郎と言うように  
命じておきます

大統領に向かつて  
そんな口の利き方は  
許されないッ

し…失礼  
しました

後ほど  
辞表を提出させて  
いただきます

ダグラス  
馬鹿なことを  
言っちゃいかん

陸軍の予算編成は  
君に一任するつもりだよ

おええええ

閣下  
大丈夫ですか

この時は  
マッカバザも  
氣迫負けした  
後日提出した辞表は  
ルーズベルトに廃棄された

マッカーサーはすでに陸軍の  
長老格で参謀総長のマーシャルも  
連合軍最高司令官のアイゼンハワ  
もかつての部下だった

ハワイ(米海軍)  
太平洋方面司令部  
ハワシントンDC  
ハ統合参謀本部

ブリスベン(米陸軍 連合国軍)  
南西太平洋方面司令部

マッカーサーは  
統合参謀本部の  
欧州方面優先主義が気に入らず  
太平洋方面の重要さを主張し  
もつと兵力を送るよう絶えず  
ワシントンに要求していた



そのマッカーサーにとつて  
フィリピン脱出で卑怯者と  
呼ばれたのは耐え難いことだった  
埋め合わせをするかのように  
オーストラリアでは頻繁にマヌコムの  
取材に応じて俳優ぶりの振る舞いで  
名言を放ち演説を行った

記者も絵になる英雄マッカーサーを  
こぞって記事にしたため  
本国では絶大な人気を  
得るようになった

その結果  
オーストラリア軍が占領した地域も  
米陸軍が占領したように思われ

太平洋方面で  
形勢が逆転しつつあるのも  
全てマッカーサーの力でなされたと  
思われるようになった

当然これはキングを始め海軍全体に  
反発をもたらしした

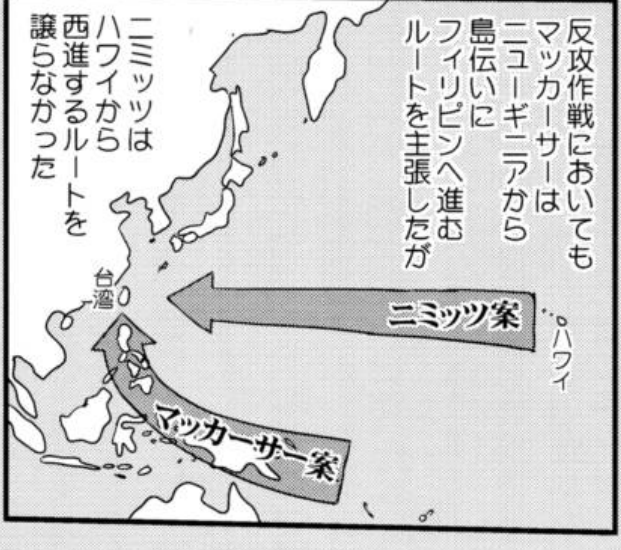
実直な職業軍人だったニミッツも  
マッカーサーとは全くメンツが  
合わなかった



長官  
なぜマッカーサーの写真などを  
貼っておられるのですか？



自分がつい  
傲慢な態度を  
取りそうな時は  
それを見て  
自制するように  
してるのさ



反攻作戦においても  
マッカーサーは  
ニューギニアから  
島伝いに  
フィリピンへ進む  
ルートを主張したが

ニミッツは  
ハワイから  
西進するルート  
を譲らなかつた



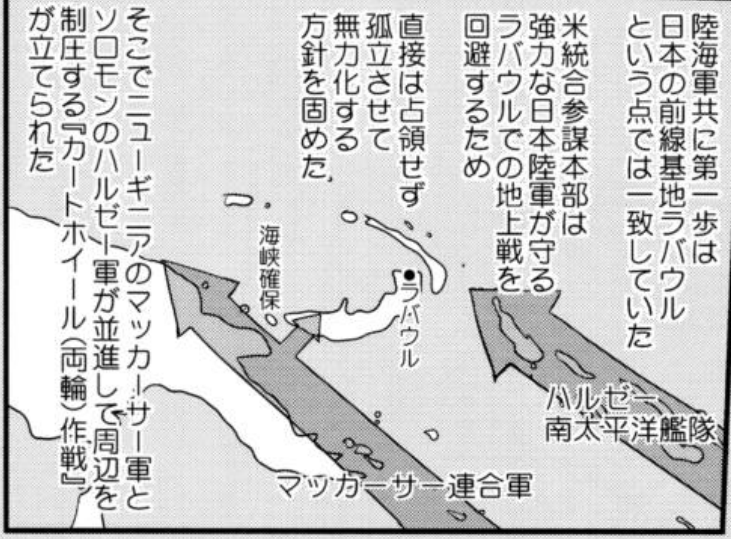
ルーズベルトはこの対立を利用し  
双方の作戦地域を分けて2方向から  
日本へ侵攻するように決定した  
こういう競争心は  
良い結果を生む

それに応じて  
マッカーサーの担当地域にいた  
海軍部隊は『第7艦隊』として再編され  
その指揮下に入るようになった  
(※大戦後現在に至るまで日本とアジアの  
安全保障を担うことになる米第7艦隊である)

陸海軍共に第一歩は  
日本の前線基地ラバウル  
という点では一致していた

米統合参謀本部は  
強力な日本陸軍を守る  
ラバウルでの地上戦を  
回避するため

直接は占領せず  
孤立させて  
無力化する  
方針を固めた



そこでニューギニアのマッカーサー軍と  
ソロモンのハルゼー軍が並進して周辺を  
制圧する『カートホイール(両輪)作戦』  
が立てられた



6月30日  
ハルゼー指揮下の  
陸上部隊は最前線の  
ニューギニア島  
侵攻を開始  
ムンダ飛行場砲撃のため  
向かいのレンドバ島へ  
上陸した

同時に  
マッカーサーの部隊は  
サラモアの近くへ  
上陸し攻勢を開始した  
日本は  
すぐにラバウルから  
一式陸攻25機が出撃したが  
輸送船1隻撃沈のみで  
逆に18機を撃墜された

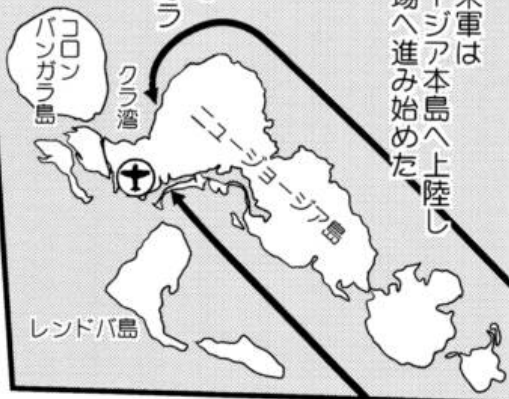


夜には第3水雷戦隊が  
現場へ突入したが  
天候が悪く会敵せず

翌日の不月1日夜に  
再度向かったが  
今度も敵は見つからず  
やむなくレンドバ島を  
砲撃して引き揚げた

7月4日 米軍は  
ニュージョージア本島へ上陸し  
ムンタ飛行場へ進み始めた

日本は急いで  
コロンバンガラ  
島への  
増援輸送を  
開始した



7月5日 第3水雷戦隊は  
輸送部隊として3度目の出撃を行い  
今度はクラ湾で米36任務部隊に遭遇した

敵発見!  
やっといたぞ  
島を砲撃してる  
全艦戦闘用意!

『新月』『夕風』が魚雷を8本発射  
駆逐艦『ストロング』に命中させた

島の日本軍も  
14センチ砲で命中弾を与え  
ストロングを撃沈した



一旦クラ湾から離れた  
第3水雷戦隊は輸送のための  
再突入は行わずフィンへ戻った

敵には  
電探があるから  
迂闊に突っ込めない

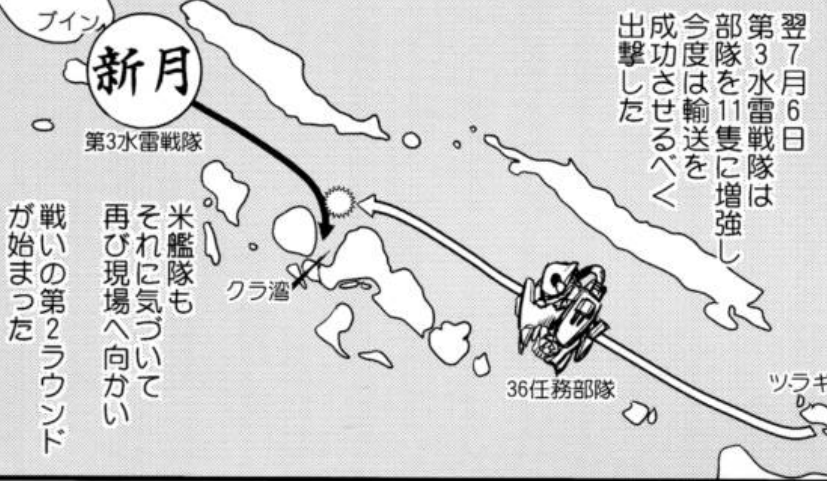
米艦隊も救助活動を終えると  
引き揚げた



翌7月6日  
第3水雷戦隊は  
部隊を11隻に増強し  
今度は輸送を  
成功させるべく  
出撃した

新月

第3水雷戦隊



23時03分 日本が先に敵艦隊を発見  
支援隊と輸送隊が分離した直後に  
米艦隊もレーダーで日本艦隊を発見  
砲雷撃戦が開始された

米軍の攻撃はレーダーで一番近くに  
表示される『新月』に集中した

谷風  
食らわせて  
やるぜ!

ガッテン!  
ガッテン!

その際に『涼風』『谷風』が  
魚雷16本を発射3本を命中させ  
軽巡『ヘレナ』を轟沈させた

輸送隊も攻撃を受けつつ  
揚陸作業を行い

邪魔すんな!



全体の約半分  
1600名と90トンの物資を  
上陸させた

戦闘の最中  
『長月』はコロンバンガラ島の  
浅瀬に座礁してしまった

しまった!



その後は互いの魚雷は当たらず  
輸送隊の被弾も多かったため  
日米とも海域を引き揚げた

新月は  
どうなった?

沈んだと思う

誰も見てないの  
可哀想に

明るくなるとすぐに米軍機が飛来し  
座礁していた長月を爆撃し  
撃沈した

この戦いで  
『新月』に乗っていた  
3水戦の司令部が  
全滅するという  
悲劇が起こった

クラ湾夜戦





7月6日  
『青葉』『川内』は内地で修理改装中  
『鳥海』は後方任務という状況で

ムリです  
ムリムリ

駆逐艦『雪風』が  
第8艦隊の旗艦となった



なぜ新型  
でもない  
私が

7月9日  
ニューギニア島の  
日本軍は予想外に健闘し  
まだ飛行場を奪われて  
いなかった

そこで  
前回陸揚げ  
出来なかった部隊と  
コロンバンガラ島の兵力の  
一部をニューギニア島へ  
増援する計画が立てられた



同日  
鳥海と川内ガラバウルに到着し  
強力な輸送部隊が編成された

よかったー鳥海さん  
旗艦よろしく  
お願いします

臨時ですよ  
あくまで

雪風の艦隊旗艦は3目で終わった



夜になって輸送部隊は  
出撃した

うるさい  
敵とやらは  
いませんね

チツ  
戦力がある時に  
限って姿を見せねえ

行き掛けの駄賃に  
米軍がいる辺りを  
砲撃しときましよう

輸送は完全に成功し  
ニューギニア島の  
日本軍は増強された



7月12日  
今度は兵力の移動で手薄になった  
コロンバンガラ島守備隊に  
1100名100トンの物資を  
追加輸送する計画が立てられた

おう神通  
やっと前線に  
戻ってきたな

全滅した  
3水戦司令部が再建中のため  
トラックから2水戦司令部が到着し  
輸送隊を率いることになった



4ヶ月も  
トラックで決戦待機してて  
やきもきしてました

水雷戦隊は  
走り回ってなんぼ  
久々の実戦  
腕が鳴ります

気をつけろよ  
敵は夜戦に電波探知器を  
使うようになってるから

日本のコバウル進出以来ツロモジ方面では  
オーストラリア軍が配置していた民間人の  
沿岸監視員(コロストウオッチャ)達が  
日本の船や飛行機の動きを逐一連合軍へ  
報告していた

日本にどうでも  
許しがたい存在で  
捕らえた容疑者を  
家族ごと殺害するなどの  
事件も起きていた

この時も報告を受けたハルゼーは  
増強された36任務部隊を迎撃に送った



23時 コロンバンガラ島北方で  
再び日米艦隊の戦闘が始まった  
米軍がレーダーで日本部隊を  
探知すると同時に『雪風』の  
逆探知機も敵を捉えた

敵の  
電波反応です

いつの間にか  
こんな戦いだ！

敵確認！

撃ち方始め





神通さん  
探照灯なんか  
点けたら！



23時08分

日本の2倍以上の  
軽巡3隻 駆逐艦10隻の米艦隊は  
神通に向かつて集中攻撃を始めた



神通が攻撃を  
一手に受ける間

雪風ら  
第16駆逐隊は  
近距離から  
魚雷31本を  
発射

軽巡「リアンター」に2本命中  
大破させた



魚雷の次弾装填のために  
駆逐隊は一旦退避

神通さんが：  
サボテン畑の中に  
いるみたいだ



23時22分 神通は魚雷と多数の  
命中弾で航行不能となる

23時48分  
さらに魚雷が命中し  
爆発で身体が  
二つに手切れた



これで  
沈黙するど  
思われたが  
神通は  
半身を失い  
炎に包まれ  
ながらも  
反撃を止め  
なかつた

鬼神の如き  
戦い振りだったという

神通が時間を稼ぐ間に  
駆逐隊は20分で装填を済ませ  
再び戦場へ戻っていた



米巡洋艦3隻は  
合計2670発  
を浴びせ  
ようやく神通を  
沈没させた

神通は  
完全に沈むまで  
砲撃を続けたという



23時59分 日本の駆逐艦が  
次弾装填出来ることを知らなかった  
エインズワース少将は  
日本軍への追撃を命じた

しかし  
隊列が乱れていたため  
「リアンター」で敵味方の  
判別がつかなくなった



0時05分 先に敵を発見していた  
日本の駆逐艦5隻は  
満を持して魚雷を発射し  
次いで砲撃を  
行った

ホラ  
魚雷の  
おかわりだ！

魚雷は次々に命中  
軽巡「セントルイス」「ホノルル」大破  
駆逐艦「グウィン」大破のち沈没  
米艦隊は混乱状態となり  
駆逐艦「フキヤナン」と「ウッドワース」が  
衝突事故で大破した



0時30分  
魚雷を撃ち尽くした  
駆逐隊は戦場を離脱した



0時36分  
入れ替わりに輸送隊がクラ湾に入り  
陸揚げを完了した

優勢な敵を撃退し  
輸送も成功させた大勝利となったが  
先日の3水戦に続き『神通』と共に  
2水戦司令部が全滅してしまつた

### コロンバンガラ島沖海戦

米軍も2度の海戦で36任務部隊が  
戦力外となりソロンから撤収し  
ハルゼーは魚雷艇を方島から  
進出させ急場を凌いだ



カートホイール作戦は  
この方面では日本の  
水雷戦隊に出鼻を  
くじかれた形となつた

7月16、17日  
米爆撃機169機の大編隊がブインを空襲  
輸送準備中の『初雪』が直撃を受け沈没した



吹雪さん…白雪  
とうとう私の番が  
来たみたい

第11駆逐隊  
バンサイ…

7月20日  
第8艦隊は『熊野』『鈴倉』を新たに加えた  
強力な輸送部隊を編成しクラ湾へ送つたが  
辺りに敵艦はなく空振りになった



夜に空襲が  
来るなんて

輸送は成功したものの  
夜間哨戒機ブラックキャットの  
レーダーに補足され  
満月のため帰途で空襲を受けた

駆逐艦『夕暮』『清波』が沈没  
『熊野』『水無月』『松風』が損傷した  
『雷風』は奮戦し4機を撃墜した

連合艦隊は第2水雷戦隊を再建するため  
第4水雷戦隊を解隊し合流させた

### 第2水雷戦隊 旗艦



長良  
(4水戦から編入)

7月22日  
米爆撃機134機が再びブインを空襲  
内地から前線へ戦略物資を  
輸送中の水上機母艦  
『日進』が撃沈された



兵1100名以上  
戦車22、重兵器、弾薬、車両、燃料などが  
一気に失われ『タンピールの悲劇』の  
再現となつてしまつた

翌7月23日 前回の夜間空襲を受け  
夜間哨戒機を避けるために  
16駆逐隊はルートを変更して  
辺りの魚雷艇も蹴散らし  
無事輸送を成功させた



『雷風』の  
ラバウルでの任務は  
これで終わり  
トラックへ  
向かつた



第16駆逐隊

7月24日 無制限潜水艦作戦中の  
『ティンサ』はパラオからトラックへ  
向かう輸送船『第三南丸』を発見し  
魚雷15本を次々に発射  
12本を命中させた



ところがほぼ全てが不発で  
南丸は大量の魚雷を  
突き刺したままトラック  
無事到着した

激怒したタスビット艦長の報告を  
受けたニミッツは再度テストを行い  
雷管が衝撃で破損する不具合を  
見つけ補強対策を施した

この改良で開戦以来続いてきた  
米軍魚雷の欠点はほぼ解消した

この頃ハワイの米諜報部は  
『海軍暗号D』に続き  
商船用の『海軍暗号S』も解読を進め

全ての輸送船団が司令部に  
毎日朝夕2回送る現在情報を  
得られるようになった

これは日本の  
商船隊にとつて  
致命的な事態だつた

この後商船隊の被害は  
飛躍的に増えていくが  
海軍は最後までこのことに気付かず  
無線情報を送らせ続けた



千島列島

幌筵島

阿武隈は

ふーん

ハイハイ

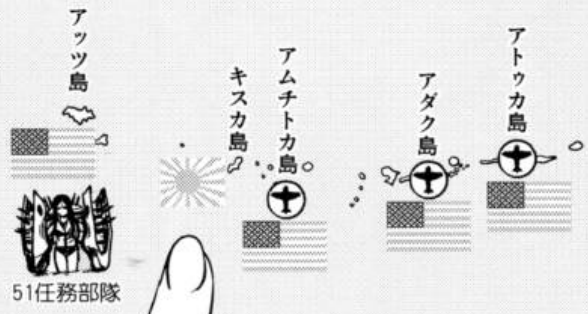
マイペースな  
艦娘だった

知つての通り陸軍との約束で  
キスカの撤退には全面的に  
協力することになっている

潜水艦部隊が  
6月11日と21日の輸送で  
872名を引き揚げたが  
『伊24』『伊7』『伊9』が  
撃沈されて292名が戦死  
潜水艦作戦は打ち切られた

オイ  
聞いているのか  
阿武隈!

アリューシャン列島



うわー！  
那智さんこれは  
ヤバイでしょー！



「ヤバイでしょー」じゃない  
残り5183人の引揚げは  
お前がやるんだよ  
阿武隈

ホントにー？

もちろん私や  
摩耶も護衛につく  
乾坤一擲！  
『ケ号作戦』だ!!

あー  
重巡は来なくていいです  
指揮系統がややこしく  
なるから

なんだと

その代わり  
お願いが三つあります

3??何だ

えー…つと

一つは気象士官を呼ぶこと  
一つは守備隊は毎日予定時刻に  
乗るだけの状態で  
海岸で待機すること

最後の一つは  
部隊に加えて欲しい  
艦娘がいます

最新の  
電探と逆探装備の

島風です





阿武隈は木曾と第一水雷戦隊を率いてキスカ島へと向かった



木曾さん 島風って面白いカッコしてますね

お前な 敵だらけの所に行くのに 相変わらずのん気だな

イキキキキ

7月10日 結局『那智』も『摩耶』『多摩』らを率いて出港した



海戦になったらあいつに任せておくのは不安だ

アムチトカ島のキスカ島の

12日 キスカへの突入予定日

しかし霧が晴れてしまったため待機し突入は翌日へと延期した

第1水雷戦隊

13日 霧は晴れたまま

14日も同じく晴れたまま

阿武隈 燃料がなくなる

一か八か突入しよう!



15日になっても霧は発生しなかった

阿武隈さん 行きましよう こうしてもいつ敵機に襲われるか分かりません

うーん



帰る

はあ!?

正気か!  
このまま  
ただ帰ったら  
何言われるか

でも  
無理に突入して  
私達がやられたら  
撤収も出来ないし  
何のための作戦だから  
元も子もなくなるから

無事に戻れば

また  
来れる

7月18日  
幌筈に戻った部隊を  
待っていたのは  
罵倒の嵐だった

阿武隈は  
軍令部と北方軍  
連合艦隊司令部  
第5艦隊司令部など  
ありとあらゆる  
上部組織から批判され

米軍の上陸が迫る中  
基地から往復16kmの道を  
毎日行軍し待機していた  
守備隊からも非難された

南方では2水戦も3水戦も  
司令部自ら犠牲になつて  
作戦を成功させているのに  
1水戦のお前は何を  
やつてるんだ!

一発の弾も撃たずに  
戻ってくるなんて  
第5艦隊の面目  
丸つぶれだ!

タダでさえ  
不足してる燃料も  
無駄にしたんだぞ  
分かつてるのか!

だから重巡は  
出なくていいと  
言ったのに

ああ?

いえ何も...

ちゃぷ

すっかり悪者ですね  
阿武隈さん

まあねー  
燃料が無駄に  
なっちゃったのは  
事実だし...

出ますかね  
霧

8月に入ると  
発生も減るらしい  
ですけど

出るよ

きつと

おッ来た  
島風バケツ  
取つて

7月22日 気象士官が  
霧が発生する予報を出し  
第1水雷戦隊は  
最後の燃料を補給し  
再び幌筈を出港した

多摩  
お前も一緒に行け!  
もう燃料はない  
必ず突入させるんだ!

にゃあ

予報通り霧は出たが  
今度は逆に  
数分先しか  
見えない  
危険な航海と  
なった

濃霧の中『右葉』と『初霜』は  
衝突事故を起こし脱落した





ところが  
突入予定日の28日になると  
現場はまたすつかり霧が  
晴れてしまった

ツイてないなー  
もう

阿武隈  
モタモタしてる  
時間はないにや!

日付が変わって29日  
気象士官から  
今日は霧が出るという  
予報が伝えられた

島風  
逆探知機は

反応  
ありません

よし  
行こう!

ほん

本日の天佑  
我にアリと  
信じて

予報通り霧が出るなか  
第一水雷戦隊はキスカ島へ向け  
敵の真つ只中に突入した

前方  
敵艦影発見!

島風

シヤアアアアア

五連装酸素魚雷



あれ？  
ただの岩だった



わははは  
敵じゃなくて  
良かった良かった

13時40分 キス力到着  
海岸で待っていた  
守備隊を次々に  
乗り込ませた

急いで！  
武器は置いて  
身軽になつて

いや三八式は  
陛下から賜った  
……

いーから全部捨てて  
今小銃が何の役に立つの

5183名の乗船は  
わずか47分で完了  
第一水雷戦隊は全速力で  
島を後にした

7月31日  
部隊は幌筵島に到着  
キス力守備隊は  
死傷者ゼロで全員帰還した

2週間後の8月15日  
米軍は日本軍の動きに全く気付かず  
激しい砲撃の後3万5千の兵力で  
キス力上陸作戦を開始

2つの上陸点から  
無人の日本軍陣地に迫り  
同士討ちで戦死者100名という  
大きな損害を出した  
陣地にいたのは日本軍が飼っていた  
犬数匹だけだった(犬も死ななかつた)



5千名の兵を救った阿武隈は  
一転賞賛の嵐に見舞われた  
キス力撤収は  
『奇跡の作戦』と讃えられ  
天皇陛下からも御嘉賞が下された  
だが阿武隈は  
罵倒された時と同様  
何も変わらなかつたという



島風バケツ  
取つてー  
あもう  
瀬戸内海に  
帰つたんだっけ

アユーシヤン列島からの  
転進によって最前線となつた  
千島列島は戦力を強化



### 北東方面艦隊

5月に編成した  
第12航空艦隊と  
第5艦隊を合わせ  
『北東方面艦隊』とし  
北の防衛に当たつた

●北方軍司令部

7月25日 『雪風』のラバウル出発  
と入れ替わりに『時雨』が着任した

幸運艦殿  
ボクにも運を  
分けてよ

またまたー



同日 早速任務についた『時雨』は  
すでに飛行機を失つていた  
レカタ水上基地の陸軍部隊を  
ブインへ引揚げ

31日にはコロンバンガラ島へ  
増援として送り届けた  
この時『天霧』は若きケネディ  
大統領の魚雷艇と衝突沈没した

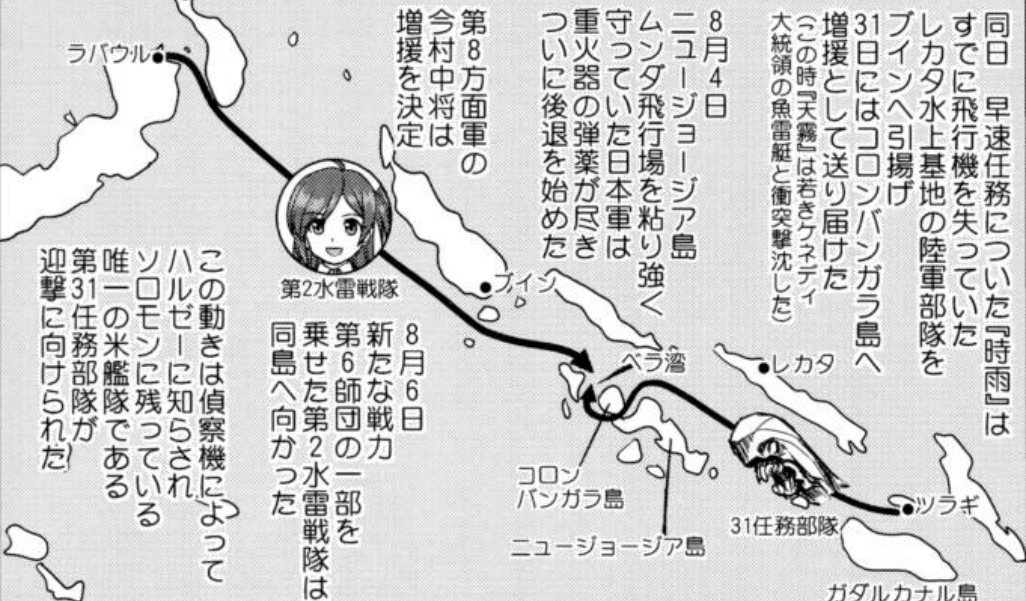
8月4日  
ニュージョージア島  
ムンダ飛行場を粘り強く  
守つていた日本軍は  
重火器の弾薬が尽き  
ついに後退を始めた

第8方面軍の  
今村中将は  
増援を決定

●第2水雷戦隊

8月6日  
新たな戦力  
第6師団の一部を  
乗せた第2水雷戦隊は  
同島へ向かつた

この動きは偵察機によつて  
ハルゼーに知らされ  
ソロモンに残っている  
唯一の米艦隊である  
第31任務部隊が  
迎撃に向けられた





ムースラツガ一申佐は少ない駆逐艦で有効に戦うため部隊を2つに分け連携した奇襲を行う戦法を取った



目視を頼る日本軍の弱点を衝き島を背に配置して水平線を消し徹底した光漏れ対策を行い待ち受けた

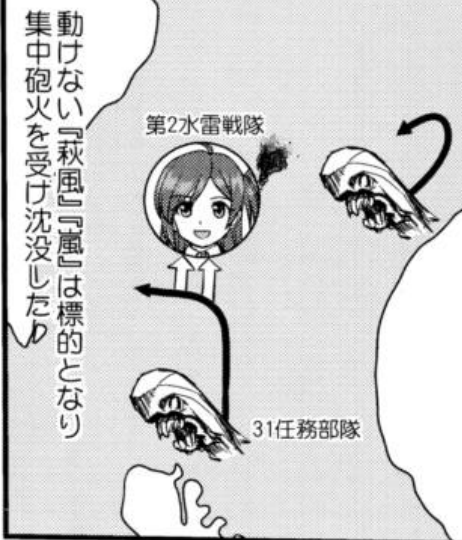
レーダーで日本軍を先に捕らえた一隊がまず必中の魚雷24本を発射し北東へ退避した



日本が気づいた時にはすでに遅く魚雷は次々に命中し「秋風」が轟沈し「秋風」「嵐」が航行不能となった



輸送部隊が立ち往生したところをもう一隊が別方向から砲雷撃を開始



動けない「秋風」「嵐」は標的となり集中砲火を受け沈没した

「時雨」も魚雷が1本命中したがこれは不発だった



次は最初の隊が反転しさらに別方向から攻撃する予定だったがすでに日本の輸送隊は壊滅していた



一人残った時雨は魚雷8本を放ち反撃したが戦果はなくラバウルへ帰投した得意の夜戦で一方的な敗北となり増援兵力も消失した

ベラ湾夜戦

この頃現場の航空部隊からはある声が上がっていた



B17は全弾命中させても墜ちないしかし機体そのものをぶつけられ確実に撃墜できます

8月11日 軍令部では第三段作戦の検討が進められていた

その席上 山本長官の首席参謀として数々の奇策を提案して重用され今は軍令部第2部長となっていた変人参謀・黒島亀人大佐は



第三段作戦では敵が想像もしない必死必殺の攻撃が必要だと発言し

モーターボートや航空機による体当たり攻撃を例として上げた現場でギリ貧の戦況に苛立った血気盛んな若い士官達が口にして打開策が作戦として初めて会議に出された

第8方面軍の今村將軍は増援輸送の失敗によりムンダ飛行場の奪回を諦めニューギニア島の放棄を決定

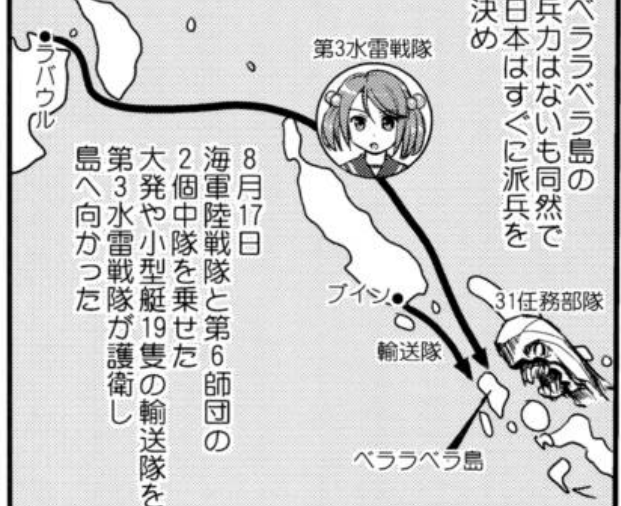


残存兵力は大発でコロンバンガラ島へ後退した

しかしジャングルでの戦闘に倦りた米軍は兵力の多い同島を無視し

8月15日 突如後方のベララベラ島へ上陸ブルドーザーで飛行場の建設を始めた

ベララベラ島の兵力はないも同然で日本はすぐに派兵を決め



8月17日 海軍陸戦隊と第6師団の2個中隊を乗せた大発や小型艇19隻の輸送隊を第3水雷戦隊が護衛し島へ向かった

22時32分  
夜間空襲を受けて隊列が乱れたが  
今度は電探装備の『浜風』がいたため  
15kmの時点で敵を発見した

巡洋艦4隻を含む  
敵艦隊発見！

ありがたい

遠距離で各艦バラバラに  
1時間ほど砲雷撃戦を行ったが  
互いに有効な命中弾はなく撤収した

輸送隊も砲撃を受け  
こちらは大発など小型艇4隻が沈み  
残りは無事に陸を果した

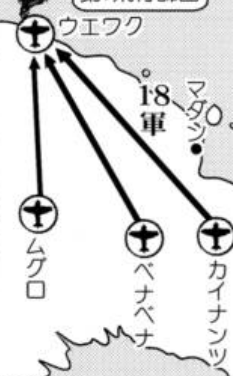
ペララペラ島の兵力は  
600に増強された

第3水雷戦隊は  
『巡洋艦1隻撃沈  
駆逐艦2隻に命中弾』と報告したが  
実際は米軍に損害はなかった

### 第一次ペララペラ海戦

ニューギニアではオーストラリア軍が  
島北部を制空権に入れるべく飛行場を  
次々に建設しているのが6月に発見された  
第8方面軍は第6飛行師団と18軍に  
攻撃を命じたが効果は上がらなかった  
そこでジャワ方面から『第7飛行師団』を  
ウエツクへ進出させ第6飛行師団と  
合わせ強力な『第4航空軍』を編成した

第4航空軍  
第6飛行師団  
第7飛行師団



だが陸軍が期待をかけた航空軍は  
発足わずか一週間後の8月17〜21日に  
大規模な空襲を受け一箇所に並べていた  
飛行機は飛び立つ間もなく地上で  
100機以上が撃破され戦力を失った

第4航空軍は70機弱となり  
さらにパイロットもマリアナなどで  
機数の7割くらいしか居ない状況で  
空の劣勢挽回は困難な状況となった

8月25日  
前線の後方にとり残された  
レカタの海軍陸戦隊を  
收容する『E作戦』が  
行われ

第2水雷戦隊



『時雨』ら駆逐隊は  
空襲をくぐり抜け  
無事撤収させた  
レカタ水上基地は  
完全に放棄された



8月20日  
大西洋

## ポルトガル領 アズレス諸島 西海域

(こんにちはは日本の方)  
グーテンターク  
ヤパーネンリン

(心より歓迎します)  
ヘルツリツヒ  
ヴィルコメン







日独伊は開戦によつて陸路の交流が出来なくなつたので潜水艦による遠距離航海での交流を行つていた

日本からは42年7月に『伊30』が訪独に成功したが帰途シンガポールで機雷事故に合い沈没

ドイツからは43年7月に無償提供の『U-511』が到着し『U-500』として海軍に編入された

さらにドイツから提供された改良型の『U-1224』を受け取るための第2回訪独として『伊8』が回航用の乗員を乗せて到着した

ヒトラーはこれらを日本が量産してインド洋でイギリス軍の後方を脅かすことを期待していた

日本はドイツが欲しがつていたゴムや錫など天然資源を積んで行った



遅くてもいいので  
海中を静かに  
進みます



日本の見られたら  
きつと海軍が  
バカにされるでち

異変があったら  
止まる

とにかく  
一にも二にも  
海中です



暗くなって  
逆探に反応がなければ  
充電に必要な時間だけ  
浮上します



充電が終われば  
すぐ海中です

日本に戻ったら  
みんなに教えるでち



8月31日  
フランスのプレスト港に到着  
ドイツでは大歓迎を受け  
デーニッツ海軍元帥と  
面会した

交流任務は  
予定通りに行われ  
その後は視察で  
各地を案内された



『伊8』は  
引き続きUボートの  
訓練を受ける乗員を残して  
10月5日プレストを離港  
12月21日無事兵へ帰国した

だが『伊8』の旅は  
遺独作戦で唯一の成功例となつた

その後連合軍に制海権を奪われるに従い  
航海は困難になって行った

43年11月 第3回『伊34』往路マラッカ海峡で撃沈

44年7月 第4回『伊29』復路バシー海峡で撃沈

44年6月 最終第5回『伊52』往路大西洋で撃沈

44年5月 伊8が受け取った『伊501(U-11224)』  
も日本まで辿り着けず大西洋で撃沈された

他にイタリアからも2隻の潜水艦が日本に向かい  
43年8月に1隻だけシンガポールに到着し  
後に『伊504』として海軍に編入された

技術協力を受けた  
潜水艦やモーターボートの設計図も  
一万分の一ミリの精度が要求されていて  
数百分の一しか出せない日本では  
製造不可能と判断された

アメリカのPTボート(魚雷艇)隊を  
真似ようとしていた海軍はアテが外れ

その構想は木造ボートに車のエンジンと  
爆薬を積んで自爆する『震洋』隊へと  
姿を変えることとなった

テートクの決断  
つづく





どうも蛸壺屋です。

艦これ本は主人公を雪風にバトンタッチして続きとなりました。

今回の『ラバウル1943』ですが1943年8月末までという中途半端な期間となり章としてもあまり独立してないのはページ(締め切り)切れのせいです。最初の構想では『あ号作戦への道』というタイトルでマリアナ戦までの予定だったんですが戦闘シーンを描くとどんどん扱える期間が短くなり結局半年分しか進みませんでした。全〇話の内の一話と思っていもらえれば幸いです。

ダイジェストで飛ばされがちなソロモンの戦いをちゃんと抑えたかったので短くして期間を進めるのは止めておきました。それでもセ号作戦完了までは入れたかった所ですが次回頑張りたいと思います。

それにしても戦況が行き詰まってきた割には明るいキャラが増えてきた感じがしないでもないです。明るいキャラは描いてて楽しいです。あと、やっぱり名のある艦は見せ場がちゃんとありますね。

このシリーズは出した後で必ず資料ミスやタイプミスや勘違いなどが見つかって頭を抱えたりするんですが今回はなるべく少ないことを願っておきます。

最終巻には訂正一覧を載せることなども予定しています。

ではまた次回お会いしましょう。

誌名 テートクの決断 ラバウル1943

発行者 蛸壺屋

発行日 2016年12月31日

印刷所 大陽出版

Scans by Super Shanko

ご意見ご感想は下記アドレスまで

URL : <http://takotuboya.jp>

E-Mail : [tk@takotuboya.jp](mailto:tk@takotuboya.jp)

## 登場艦娘

金剛	榛名	大和	武蔵
長門	陸奥	山城	扶桑
瑞鶴	隼鷹	飛鷹	鳳翔
那智	鳥海	摩耶	熊野
鈴谷	青葉	龍田	阿武隈
川内	神通	木曾	五十鈴
長良	多摩	間宮	水無月
如月	長月	皐月	望月
白雪	初雪	敷波	漣
電	初春	涼風	若葉
初霜	時雨	村雨	江風
大潮	荒潮	朝雲	不知火
朧	朝潮	黒潮	陽炎
親潮	浜風	磯風	時津風
谷風	萩風	島風	天津風
伊8			

# テートクの決断 ラバウル1943

TAKOTUBOYA  
Adult Only

テートクの決断	昭和16年の敗戦 (1941. 7. 28～1941. 12. 8)
テートクの決断	MIDWAY (1941. 12. 8～1942. 6. 7)
テートクの決断	鉄底海峡 (1942. 6. 8～1943. 2. 7)